明治四十年十二月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百十七號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治三十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百拾七號目次

明治四十一年一月

新年會通知

來る一月十一日(第二土曜日)午後二時より新年相互の禮を兼ね神田區一ツ橋通り女子職業學校内に於て新年會相催し左の餘興も有之候間御知友御誘引御來會有之度此段御通知申上候也

一 新年の辭

一 餘興 講談 眞龍齋貞水

明治四十年十二月

私立大日本婦人衛生會

最早年内餘日も無之會計整理の都合も有之候間會費未納の御方は此際本會事務所へ宛何卒至急御送附被成下度候也

◉會 告◉

本會は今回振替貯金に加入致し候に就ては會費拂込みの節は何處の郵便局にても送金は總て無料にて取扱ひ申候本會の振替貯金口座番號 一〇六〇〇番に付右番號を御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄内へ送金高、拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名(即ち本會)等を記入し同時に金員御拂込相成候はゞ直ちに本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盜難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被成下度此段會員諸姉に稟告致候也

○本月發行の本誌には會員諸姉の御便宜を謀り振替貯金拂込用紙を添付致置候間そを御用ひ被下度候

明治四十年十二月二十日

私立大日本婦人衛生會、

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨きて人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んもいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら擧るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは風に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を慾かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集合を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに益すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を研究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續は卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす　終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親族知友より通知せらるべし但旣納の會費は總て返與せず●第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十五名　書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は並會に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の作●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期者再選することを得若し任期中缺員生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす　集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意に議せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々塲に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得　但衣服は總て質素たるべきこと●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て本會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計主任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし其後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に直送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を簿冊に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送發として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地

私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃

- 總裁 周子殿下
- 會長 侯爵夫人 鍋島榮子
- 副會長 男爵夫人 瓜生繁子

（いろは順）

- 幹事 鳩山春子
- 仝 羽川三緒子
- 仝 岡田徳子
- 仝 高木かう子
- 仝 山木多嘉子
- 仝 松平芳子
- 仝 三浦敏子
- 評議員 石川貞子
- 仝 岩下ゆか子
- 仝 濱田捨子
- 仝 長谷川仲子
- 仝 仁禮壽賀子
- 仝 西升子
- 仝 穗積歌子
- 仝 土肥多越子
- 仝 緒方悦子
- 仝 岡山とし子
- 仝 小川孝子
- 仝 男爵夫人 加藤鈴子
- 仝 片山龜子
- 仝 吉武輝枝子
- 仝 丹波貞子
- 仝 高橋樂子
- 仝 田村きよ子
- 仝 男爵夫人 南部限子
- 仝 中濱芳子
- 評議員 子爵夫人 山口貞子
- 仝 松井正子
- 仝 岸進子
- 仝 三宅藤子
- 仝 宮本樂子
- 仝 宮下喚子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

- 醫學博士 入澤達吉君
- 理學博士 飯島魁君
- ドクトル 伊澤信平君
- 色川圀士君
- 醫學博士 伊東祐彦君
- ドクトル 飯盛挺造君
- 醫學博士 伊藤隼三君
- 理學博士 石川千代松君
- 日本赤十字社醫長 岩井禎造君
- 醫學博士 石原久君
- 醫學博士 廣瀬雄一君
- 醫學博士 石原喜久太郎君
- 貴族院議員 濱尾新君
- 醫學博士 濱田玄達君
- 法學博士 鹿山和夫君
- 東京 秋原彌四郎君
- 醫學博士 芳賀榮二郎君
- 長谷川泰君
- 新潟 長谷川一銓君
- 小兒科 小原頼之君
- 醫學博士 隈田榮吉君
- 醫學博士 林春雄君
- 醫學博士 佐藤達次郎君
- 醫學博士 緒方正規君
- 步兵中佐 坪内文次郎君
- 醫學博士 土肥慶藏君
- 醫學博士 岡田和一郎君

- 醫學博士 大澤謙二君
- 醫學士 大西秀治君
- 醫學博士 大澤岳太郎君
- 一等藥劑官 恩田重信君
- 醫學士 若杉喜三郎君
- 醫學士 渡邊房吉君
- 男爵 加藤弘之君
- 醫學博士 加藤照麿君
- 醫學士 賀古鶴所君
- 醫學博士 河本重次郎君
- 醫學博士 片山國嘉君
- 醫學士 川上雅發君
- 醫學士 隈田龜一郎君
- 醫學博士 金杉英五郎君
- 醫學士 笠原光興君
- 醫學士 唐澤光徳君
- 醫學士 河野衛君
- 醫學博士 高橋順太郎君
- ドクトル 高山紀齋君
- 醫學博士 高木兼寛君
- 法學博士 高木豐三君
- 醫學博士 田代義徳君
- 新潟 田代亮助君
- 男爵 高崎正風君
- 醫學士 竹中成憲君
- 醫學士 高田耕安君
- 新潟醫學專門學校長 高橋辰五郎君
- 藥學博士 丹波敬三君
- 醫學士 高橋良所君
- 藥學博士 田原良純君
- 醫學士 田村光顯君
- 醫學士 久保猪之吉君
- 醫學士 米山彥郎君
- 二等軍醫正 星野篠光君
- 醫學士 宮本叔君
- 三等軍醫正 横井忠閑君
- 大日本教育會長 辻新次君
- 理學博士 坪井正五郎君
- 醫學博士 長與稱吉君
- 男爵 南部甕男君

- 藥學博士 長井長義君
- 醫學博士 遠山椿吉君
- 醫學博士 中濱東一郎君
- 醫學士 熊山玄通君
- 醫學士 栗本康勝君
- 海軍中佐 小笠原長生君
- 醫學士 村松敏三君
- 醫學博士 隈川宗雄君
- 醫學博士 栗本東明君
- 醫學士 山田鐵三君
- 醫學士 山田弘倫君
- 醫學士 山根正次君
- 岡山 山川春二君
- 衞生試驗所技手 丸山長四郎君
- ドクトル 松山陽太郎君
- ドクトル 此木信六郎君
- 盲啞學校長 小西信八君
- 廣島 小泉寛君
- 醫學士 古川榮君
- 東京 布施正臣君
- 南滿洲鐵道總裁 後藤新平君
- 元帝國大學教授 エ、ベルツ君
- 醫學士 中野榮君
- 文部書記官 寺田男吉君
- 醫學士 寺田豐作君
- 醫學士 寺田織尾君
- 子爵 秋元興朝君
- 前軍醫總監 足立寛君
- ドクトル 新井古労君
- ドクトル 富士川游君
- 高崎醫會長 土谷余次君
- 產科婦人科 水原漸君
- ドクトル 久保田誠磨君
- 醫學博士 佐々木政吉君
- 醫學士 淺田次君
- 醫學博士 朝倉文三君
- ドクトル 朝山義六君
- 醫學博士 菅之勝剛君
- 醫學博士 佐藤三吉君
- 醫學士 櫻井郁二郎君

- ドクトル 佐伯理一郎君
- 醫學博士 [illegible]順次郎君
- 醫學博士 [illegible]代三郎君
- 醫學士 佐藤得齋君
- 醫學博士 櫻井恆次郎君
- 醫學博士 桐淵鋭次君
- 醫學士 北村精造君
- 醫學博士 北島多一君
- ドクトル 北川乙二郎君
- 醫學博士 木下正中君
- 醫學士 北島小大郎君
- 醫學博士 北里柴三郎君
- 醫學博士 三浦守治君
- 醫學博士 三浦謹之助君
- 小兒科專門 宮本仲君
- 理學博士 箕作佳吉君
- 醫學博士 三島通良君
- 醫學博士 三宅秀君
- 醫學士 三輪信太郎君
- 伯爵 土方久元君
- 醫學士 島村俊一君
- 醫學博士 弘田長君
- ドクトル 日高昂君
- ドクトル 須山卓樹君
- 醫學士 近川徳君
- 醫學博士 木村徳衞君
- 醫學博士 森林太郎君
- 醫學士 征川三男三君
- 醫學士 波多野傳三君
- 醫學博士 吳秀三君
- ミス リツテル
- ミス ヒユース
- ミセツス コーツ
- ドクトル 菊池衡一君
- 醫學士 橋本左武郎君
- 醫學士 鳥居森洋君
- ドクトル 土田卯三郎君
- ドクトル 佐藤迪雄君
- ドクトル 西山信光君
- 醫學士 澤崎寛制君

講演

韓國婦人の衛生に就て

堀内文次郎君講演

今日御話を致しますことは誠に切れ〳〵でございまして、韓國婦人の衛生に就てと云ふ題を掲げましたけれども、實際は韓國に於ける衛生上の所感を交ぜ混ぜに申し上ます、又直接に衛生に關係して居らないでも間接に衛生に關係して居る事、それらの事も無論ひつくるめて、唯思ひ付いたことを端から御話をする積りでございますから、其御積りで御聽取りを願ひたうございます、或は直接には關係のないやうなこともございますけれども、能く遠く考へると云ふと、それが衛生に關係して居ると思ふたことは皆な申述べる積りでございます、私が平壤に居りまして、朝鮮人の中に丁度斯う云ふ風になつて居りました、是が朝鮮人の家でございます。（以下圖解）

私は態々研究の爲に朝鮮人の家屋に住つて居りました、入つて來る所は丁度此門を入つて、是から中に幾つも〳〵朝鮮人が住つて居るやうな風になつて居ります、其處を入つて來て、丁度此處が私の居つた室と云ふやうになつて居ります、向ふ三軒兩隣と云ふことを申しますけれども、朝鮮ではさうでない、四方八方十軒隣、十軒よりもつと餘計あります、此方側だけにも二軒、此方側が三軒、四軒、五軒、門の中に七軒、十三軒であります、四方十二三軒の隣であります、で其中に私が居りました、それで夫等のことも一寸御考へ下さると直ぐ衛生に關係を致します。

朝晩韓人の中に居りましたから、能く研究を致し

ました、それに私は數年來朝鮮人は澤山教育を致して居ります、今の陸軍大臣李秉武、あれも全く私の弟子であります、其他澤山自分の弟子であります、それ故朝鮮人に就ては、私は十餘年研究を致して居りまして、今度自分が行つて、幸ひに今のやうな處に、全く朝鮮人の中に生活して居りました所から有ゆる所感を或は唯御婦人に關係したこと、又衛生に關係したこと、それらを皆な交ぜ混ぜに申述べます、併ながら中々今日此處て、僅かの時間て皆な申述べる譯には行きませぬ、唯其中の二三ヶ條だけを簡單に申述べます。

それて此衛生と云ふ事に就て、私が第一に感じましたのは、婦人の衛生ても男の衛生ても同じこととてありますが、國體と此衛生の關係、國體と婦人衛生と云ふものが、大變な關係を有つて居ると云ふことを偶然に考へました、それて國體は、例ば日本と云ふ國て生れて居る女と、それから朝鮮と云ふ國て生れた女と、生れると既に、總ての衛生が自然に違つて居るのです、其國に依て違つて居る、是は學問上からでもなんでもなしに、唯其國の國體からして、自然に違つて來て居るのであると云ふことを感じました、て是は最少し大きく具體的に言ひますると云ふと、國體が確かりして居る所の女であれば、自然と其國體に付いたやうな女が出來る、從つて其衛生法も違つて來る、斯う言ふのであります、それてありますから之を引繰返して言ふと、女の衛生法が發達して居るやうな國、即ち日の出の國、日本國の女のやうな發達して行く性質を有つて居る國であると云ふと、さう云ふ觀念から引き起して行く衛生法、即ち精神的自然の衛生法それが發達して行くと云ふと其國は立派な國になる、斯う云ふことになるのです。

それてどうも今日迄自然に經過して來た、歷史の方から言ひますると云ふと、一番能く分ります、是は御子供さん方にも能く分りますが、小さい御兒さん御覽なさいまし、是は朝鮮の國體てす、是は日本

の國體です、是は私が描いたのであります、此三月一日に私が平壤を立ちました、其二月二十七日に平壤の小學校で私が生徒に別れを告げて來たのです、其時に自分が此圖を描いて、生徒に話をして來ました、それは日本と云ふ國と、朝鮮と云ふ國と其國體が違つて居る、根本が違つて居るからして、どうしても是は朝鮮は亡びるのである、日本はどうしても亡びない國であると云ふことを、熟々感じたのであります、平壤だけの學校生徒が、日本人が……百人てはきゝませぬ、百二三十人居ります、其小學校生徒に能く分らせやうと思ひ、又自分も是は子供計りぢやアない、總て吾々共どんな大きな者でも、能く研究しなければならぬと感じたので、どうかして繪に描かうと思つて、是は自分で色々工夫して描いたのであります、餘程巧く描いてあります(笑聲起る)兎に角是は自分が朝鮮に居りました時に、總て研究した結果を畫に現はしたのであります、之に就ても他に澤山自分の研究したことがございますが、今日は衛生の方の關係に就てのみ御話を致します。

日本の國は、斯う云ふ風に立派な兵隊になつて居るのです(圖指示)一人になつて居るのです、神武天皇樣から今日迄、立派な一人の男なんです、女でも差支へない、今日は婦人會でありますから女で宜しい、朝鮮は色々な王さんが出て化物の樣に變つて居るのです、日本の方で言ひますと云ふと、神武天皇から今日迄萬世一系で、天子樣の御系圖は一つしかない、即ちそれを圖に描いて見ますると云ふと日本の國體は一人の兵隊になるのです、頭には皇室の帽子を冠つて居ります、腹の處が大和魂、それから武士道と云ふ羽織を着て居るのであります、股は臣民です、國で言ひますと片足が中國、片方は九州四國に立つて居るのです、北海道中國、是は兩方に跨つて居るのです、それから此頃になつて、ステッキ取つたんです即ち臺灣、それから樺太島、是はまだ身體になつて居らない、丁度劍みたいにくッついて居るのです、それだから日本の國體は斯う云ふ風に、

昔から健康なる一人になつて居ると申すのです。朝鮮は一番初めが檀君です、是は日本て云ふと、神武天皇のやうに言ふて居ります、是は神樣だか何だか分らないがそれが檀君、檀君は團十郎のやうな顔に描いてあります、此の朝鮮半島と云ふ座布團を敷いて座つて居るのです、それて是は平壤の北の方に都して居つたと云ふのです、それだから平壤邊りては檀君と云ふと皆神のやうに思つて居ります、さう云ふ者が一番初めてす、それから箕子になつたんてす、箕子は箕てすから箕のやうな格好に描いたんてす、其次ぎが衞滿、衞滿は饅頭のやうだからかう云ふやうな形に描いたのてす、其次ぎは三韓てす、三韓は馬韓と、辰韓と、辨韓てす、馬韓は馬の頭に描いたのてす、それから辰韓は辰てすから龍見たいに描いてあるのてす、辨韓は辨髮てすから貴女方の束髮見たいに描いてあるんてす、是が三韓、それから其次ぎは三國てす、三國は新羅、百濟、高麗、此高麗は高勾麗と云ふのと高麗と云ふのと二國てあつたが仕舞に成つて高麗と成つたので、是は三國てありましても實際は四國てす、日本ては三國〳〵と言つて居りますけれども是はさう云ふ譯なのてす、百濟はクダてすから管の形に描いてあります、新羅は米をシラゲルと云ふので、米の形に描いたんてす高勾麗はコー〳〵だから兩端を切つた澤庵のやうに描いてあります、それから高麗、是は廻はす獨樂になつて居るそれから、今の朝鮮の王さんの李氏てす李氏は李てすから李が描いてあります、今の朝鮮の王樣はこんな顔をして居るんてす。

それてからう云ふ譯て朝鮮は幾つも〳〵化物が寄つて居るのてす、こんな化物が出て來たら何になるか分らない、之を寄せ集めて見るとかう云ふ大きな頭の幾つも〳〵ある化物になるのてす、さうして此化物は自分の國が亡びる〳〵と言つて鳴いて居る、併ながら古いことを申しますと云ふとどうしても向ふは四千年、こつちより千年の兄さんてす、總て貴方々が着て御出てになる着物ても、何も彼も皆朝鮮人

に就はつたのてすはたを織るのもそうてす今日本て秦など丶云ふ名字の御方が此處にも御出てになりませう、又外にも澤山でざいませうが多くは皆先祖は朝鮮から來て居るはたの先生てす、さう云ふ風に兄さんてはありますけれども、かう云ふやうな色々の物が寄つて來て此今日の王さんになつたやうな譯てありますからして何うしても日本のやうにキチンとは固まらない、それてすから、頭がグデン／＼して何うしても泣き出す化物國てす、即ち朝鮮はどうしても亡びなければならぬ國體てす、さう云ふ有樣てすからそれを本として考へてください、かう云ふ泣きさうな顔をして居る國の女が何う云ふやうな衛生をして居るか又立派なキリツとした日本の如き女の衛生とは何處が違つて居るか、必ず違つて往くに極まつて居る、之を私が極く根本的に言ひますと云ふと、國體と婦人の衛生とは相伴つて居て、國體と衛生とは自然に一致して往くてす、それが旨く一致して行けば國が成立つて行く、で婦人の衛生が旨く行けば其國體は益々堅固にする、又國體の方から言ふと、其國體は婦人の衛生をして益々健全に發達せしむる、斯う云ふ風に何方からも言へるです、即ちかう云ふ風に朝鮮はどうしても泣面國體てありますから、泣ッ面衛生になつて仕舞つて、立派な女が出來る譯がない、况んや益々發達して行く子供が出來る譯がない、斯う云ふ工合に是は先天的に衛生の關係がさうなると自分は堅く信じます、先づ此國體と衛生との關係に就ては其位に致して置きますが、私が發見しました國體と衛生と云ふことは、是はドクトル方に御話下すつて、御高説を伺ひますが、兎に角自分て發明をした積りて實際さう感じました、此事は無形の關系論になり六づかしくなりますから此位て止めて置きますが御熟考を願ひます。

扨て一番分り易い例を一つ申上げると、朝鮮の子供は何所を歩いて居るのを見ても、實に元氣がないてす、亡國的の遊び方をして居る、それは子供てすから紙鳶も揚げますけれども、嬉しさうに壯快に飛

廻つてやつて居ると云ふやうな生き〳〵した元氣がない、日本へ歸つて來てそれが大變自分の目に注いた、日本の子供は男でも女でも、遊び方が實に活潑て、嬉しさうに遊んで居る風が能く分りますけれども、朝鮮の子供は、極くグツ〳〵して何だか哀れツぽいやうな遊び方です、其等は自然の國體、自然の衛生が原因をして、心から身體からさう云ふ風になつて來ますから、從つて同じ學理の衛生をやつても其精神と先天的の生理上の關係が違つて行きますから、同じことの學理を持つて來ても、日本に持つて來たのと、朝鮮へ持つて來たのとは違つて行くのです、丁度梅や何ぞを日本に植えて置くと、立派な梅の花が咲くけれども、朝鮮へ持つて行くと李になつて仕舞うと云ふやうな關係で、日本に於てもさうです、甲の土地で立派な梅であつても、乙の土地へ持つて行くと妙な杏になつて仕舞うと云ふ關係があります、さう云ふ風な譯で先天的に土地の關係で、同じ衛生上の學理でも違つて行つて仕舞うのです、さう云ふやうな事に就て自分は感じましたから、其御考へて果して私の感じた所が實際であるかどうであるかと云ふことは、皆さん方で段々御研究をなすつて下さい、私はさう感じて居ります。

次に全般の衛生のことを申上げますに就ては、ザツと朝鮮の氣候のことを御話をせぬといけませぬから、それを申上げます、それは私の居りましたのは三十九年でありますけれども、三十八年と三十九年の一番寒い時と暑い時の溫度を申上げます、一番寒いのは一月と二月です、それが三十八年の……是は無論平壤と鎭南浦です、三十八年の一番寒い一月の平均溫度が零下十度六、二月が零下三度それから三十九年の平均溫度が一番寒い時が一月が零下六度九分、二月が零下九度五分、それが一番寒いやうです、それで今のは平均の寒さですが、今度三十八年の一番寒かつたのが一月で零下十九度、二月が零下十五度、三十九年が一月で零下二十度、二月が零下二十五度。それから一番暑いのは六月七月で、三十

八年の平均の暑さが、六月で三十八年の平均が三十一度、三十九年が三十二度、それから三十八年の七月の一番暑い日が三十一度、三十九年が三十三度、是は平均ではない、一番暑いやつです、其暑い日は日本より暑うございます、併ながら朝晩は涼しうございます。

それから今の一月二月は寒暖計は此通り低くなりますけれども暖かです、身體には割合に寒さを感じない、私は今年三月宇品へ上りましたけれども、宇品へ上つて初めて外套などを着たいやうな感じを持つたです、それで今日まで日本は太陽が光らないやうな感じをします、日本の方が餘程空氣が濕つて居ります、氣持が非常に惡い、それですから朝鮮の方が寒いと言ひましても氣持が宜うございます、暑い時でも氣持が宜い空氣が干いて居るから……それですから寒い時でもそんなに感じませぬピユー〱風が吹きませぬのと濕氣が尠ないので溫度を取りませぬからそんなに感じない。

今度は天氣の方の關係を申上げます、溫度は今のやうな鹽梅ですけれども天氣は斯う云ふ風です、三十九年の十二月十五日から本年二月十八日迄、是は無論平壤と鎭南浦の所です、晴天が四十日、曇天が十七日、雨が二日、雪が七日、是ッきりです、それで此晴天と云ふのはモウ極く好い天氣です、實に好い氣持です、デ是は冬ですか、一番日本で天氣の惡い時分にさへ今の通り天氣の方が多い、それから曇天と云つた所が日本のやうな曇天でない、欝陶敷いやうなこと、頭痛のするやうなことはありません、雨が降つて居つても、手拭などを其邊へ干して置いても大概一時位で干して仕舞ひます、幾ら雨が降つて居つても空氣が濕らない、それで雨は今申上げたやうに、冬の間に僅か二日しか降りませぬ、是も夕立みたやうな雨でありまして、極く行儀の宜い雨、さう澤山でございませぬ、それから雪は七日ありましたけれども、此雪と云ふのも極く僅かです、平壤邊りで一番餘計積つたのが二三寸だらうと思ひます、

そう云ふ風でありますから、空氣や何かの氣持が非常に好うございます、それですから呼吸器病、氣管支、肺病などは朝鮮へ行くと治るです、肺病の人は早く朝鮮へ行くが宜いです、第一向ふへ行くと能く肥ります、私も向ふに居る間は雨が降つても何でも氣持が宜かつた、日本のやうにジメ／＼して居りませぬ、それから日本などでは煙草などを召上る方は濕つてお困りでせう、向ふは干いて／＼仕方がない押入なども恰も泥を固めたやうな押入ですけれども黴るなどと云ふことはございません、劍なども、日本では朝磨いても正午頃になると錆て仕舞ひますが向ふでは何十日放つたらかして置ても錆るなど丶云ふことはない、實に愉快な氣持です。

さう云ふ風に天候と氣候とを言ひますると、早く皆さん朝鮮へお出でなさい、衞生上には私は朝鮮の方が餘程宜いと思ふ、何でも能く知りませぬが世界で一番健康國であると云ふ話です、それは實際さうだらうと感じます、私が昨年の十一月に馬で頭を怪我をした、八針縫ひましたが四日ばかりでピタリと癒つた、それは確かに癒ると思ひますね、それと云ふのは空氣が宜いからドン／＼干いて癒つて行くやうに思ふ、總て怪我などは早く癒ります、是は臺灣と全く反對です、私は臺灣にも居りました一年半ばかり、モウ濕氣が非常に多くつて、基隆邊りは今月から來年の三月頃まで太陽を殆と見ませぬ、毎日雨です、南の方へ行くとそれほどではありませぬけれども、臺北邊りではモウ三分の二は雨です、臺南の方へ行くと冬は雨が降りませぬ、けれども空氣が濕つて居つて仕方がない、丁度朝鮮から歸つて來て宇品へ上つた時が、日本から基隆へ入つたやうな氣がしました、恰も水の中へ入つて行くやうな氣持です、唯氣候の關係と天氣の關係を云ふとさうであります。

さう云ふと日本の方が非常に惡うございますけれども、其代り日本の方は總て木だとか花だとか、櫻や梅など、人間を喜ばせるもの、斯う云ふやうな

ものは朝鮮には全くございませぬ、少しはある、大同江の上の方の山にはありますけれども、日本の櫻などゝは違ひます、それですから春が來ても花は只李です、桃はあります、其他梨子が少しありますけれども、彼んなやうな花だけです、それてありますから、唯單に生理上の關係のあるものだけて氣候と天候から云ふと向ふの方が宜いてす、けれども今の精神作用、目を喜こばせるやうなものはありませぬから、それは別問題てすから其御積りて御研究を願ひます、唯空氣や天候からいふと向ふゝ方が非常に宜い、然かしそれだけては人間は生て居りませぬから總て目を喜こばせるやうな花がなければならぬ、半分々々てあります、其半分の方がない、それだから朝鮮へ行くのは厭だと云ふ考へを起しませうが、併し段々植れば出來ると思ひますけれども今はございませぬ。

それて今の空氣と天候だけをいふと大變宜いが、櫻の花のやうにパッと咲いて實に人間を喜こばせて躍り上らせるやうなものがない、それですから人間が呑たれになつて來て、グヅ〳〵して陰氣なものになつて仕舞ふ、日本などては春になつて向島邊りへ行くと、面を被つたり何かして騷ぎませう、あれは日本の興つて來る所だらうと思ひます。

元來日本が興つて、朝鮮が滅びて行く原因を考へますに、人間を較べても向ふの方が兄さんてす、着物ても何ても皆向ふが先生てす、先生が滅びれば日本も終には滅び、兄さんが死ねば弟も死ぬのですからさうなつたら大變、私は實に死活問題だと思ふ、是は自分の友人にも又先輩にも計つて、大問題として研究して居ります、又是は決して默つて居るべきてないと思つて、火の附くやうに自分は感じて居ります、是は又別の所て御話を致すことにしますが生理上兄が死ねば弟も死なゝくつてはならない、どうしても死ぬてす、同じ血統て——血統はどうか知れませぬが、兎に角同じ人種なのですから、支那でも朝鮮ても印度ても暹羅ても東洋の國は皆滅びて居る

同じ人種は皆滅びて居るです、即ち吾々の兄さんは皆滅びて居る、それ故どうしても今度吾々の番になつて來る、さうなつては大變ですから貴女方確かり考へて下さい私は歸つて來ると、立派な學者にも博士にも計つて此事は自分は研究して、必要な問題と思つてやつて居りますが、日本には櫻があるから滅びない、と云ふことになつたのです、櫻があるから滅びないと云ふより外はないのです、色々研究した結果が遂々櫻だけが殘る、日本では櫻は咲くが、朝鮮へ持つて行つては咲きませぬ、臺灣でも咲かない、總督府の庭に植えましたが、持つて行くと直ぐ咲いて翌年からは咲かない、先づ咲くのは日本だけですから、其櫻がある爲めに日本は滅びないと云ふ結論になりさうです、氣候や何かの點から言ふと日本にも惡い所がありますけれども、櫻が咲いたりして春になると實に愉快になつて、今まで臺所や何かに埋れて居つた人間がパッと躍り出す、それが爲に人間が興つて行く、斯う云ふことになる、是は多分どうもさうなるだらうと思ひます、是は或はどう云ふ反對論が出るか分りませんが、之に就ては私は充分研究をして、其御意見を聞きたい積りであります、兎に角さう云ふ點がないから朝鮮は自然陰氣になつて滅亡するやうなことになるのであらうと思ひます、次に普通朝鮮女がどんなことをして居るかと云ふことを二三お話を致します。

韓國の女と日本の女と比べますると、兎に角身體は向ふの女の方が宜いです、前に申上げました國體の方から云ふと、日本の女の方が能くなりますけれども、身體は向ふの方が宜いです、併し氣力はない茲には身體だけを比べて御話を致しますから、日本の女は皆惡いと落膽なさるといけませぬ、向ふの女は身體は實に宜いです、確かりしたものです寫眞を御覽になれば分ります、それですから男でも何でも私のやうに小ぼけてない、實に吾々などは羞かしいです、向ふの少し金のある人などは實に大きくて立派です、女は小さいのもあるが、併し日本のやう

な小さな女は少ない、概して大きいてす、ナゼ大きいと云ふ原因は其仕事を少し御話すれば分ります、朝鮮ては女の仕事は臺所と洗濯と是だけてすが、樂てない、男の方は樂てす、男の野郎は寢てばかり居る、それて女が働いて食はせるてす、男は朝鮮へ行つた方が宜い、男は五十錢なら五十錢取つて來ますと、それて三日ても四日ても寢て居る、臺所は皆女てす、それから水を汲むやうな宿六は決してないてす、どんな下等の奴ても男が水を汲んて居るやうなことはない、男て水を汲むのは水男て、稼ぎに出て一荷五錢なら五錢て賣る奴てす、決して亭主が水を汲んて來てやるやうなことはない、どんな裏長屋へ行ても決して亭主が水を汲むやうなことはない、又臺所へ手を出すやうなことはない、臺所のこと、臺所に屬する水汲、煮炊皆女がやるてす、所謂内務外政それは實に明瞭てす、是は大變宜いことて、私は日本てもア丶云ふ風にしたいと思ふてす、それてすからどんな時ても水を汲むのは皆女てす、其水を汲むのは、丁度一斗ばかり入るかめてす、それを女がチヨツト頭の上へ載せるてす、それにもナカ／＼上手下手がありますが、下手な女は水だらけになる上手な女は旨い工合にポンと載せます、是も寫眞にありますが、載せる時に斯う云ふ輪があつて、其輪を載せて其上に載せる、年寄になつたり載せ方の下手な女は隣りの女に載せて貰つて居るが上手な人は一人てやる、少しも溢さずに旨く載せます、さうしてズン／＼歩いて行く、デ下を向けば水が溢れるから自然眞直に向くから姿勢が宜くなる、日本の兵隊などは此姿勢を稽古をするが良いと思ふ、向ふの婦人は皆やつて居る、だから乳ても何ても非常に張つて居ります、さうして日本の女のやうに内股に歩くやうなことはない、皆ツッツッと大股に歩く、兵隊が歩く通りてす、さうして載せて居る物に手を掛けて居る、それゆゑ自然と肺や何かゝ大きくなり、又手を掛けたり何かするから、柔軟體操をするやうな譯になる、だから發育が非常に宜い、吾々が三人位

抛り投げられさうな女が澤山居る、それだから朝鮮は女ばかりだつたら、日本と戰爭をしても勝つかも知れないが、野郎はいけませぬ、食つてはゴロ〳〵寢てばかり居るからどうしても弱い奴ばかりです、又女が衞生上、體育の上に於て宜いと云ふのは洗濯である、大同江其他でも皆女が洗濯をして居りますが、朝から晩まで河緣の一番空氣の宜い所へ出て居る、さうして其洗濯する物を家で皆達で煮て行つて、河緣で杵みたやうな物で、石の上でトン〳〵叩くのです、それだから實に奇麗になるです、朝鮮人の着物の白いのは實に立派です、塵芥だらけの家から立派な奇麗な着物を着て出て來る、それは皆今申したやうに洗濯にあるのです、それはモウ盛なものでして大同江の緣などは冬天氣の好い日になると、氷が張つて居つて其兩側にズーッと一大隊位居て、それがポン〳〵叩くから、恰でチヨット聞くと鐵砲で演習をして居るのかと思ふ位、それも決して洗濯屋などに掛けるのではない、自分で必らずやるです、

さう云ふ風に朝から晩まで空氣の好い所へ出て居りますから、飯でも女の方が餘計食うです、是は私が氣付て調査したのです、私は朝鮮人に友達が澤山居るから、それに嘘を言はないで、本統のことを聞いた、一體君等は細君と君と何方が飯を餘計に食ふかと聞きますと郡守とか監察使位になると自分で妻君でも妾でも洗濯はしないから、上等の者になると食はぬと云つて居るが、ナニ確かに男より餘計に食ふ者があるようです、それから中等以下になつては固より自分でやるのですから、男が三杯なら女が五杯です、それだから自然に女の方が強いから嚊ア天下です、非常な威張り方で、其例を言ひますると、私の居つた所の向ふ三軒十二軒隣などでは、丁度去年の八月から昨年中皆喧嘩をしました、端から一軒殘らず皆喧嘩をした、それで皆女が勝つて居るです、それも男が決して手を出さない、手を出せないのです、女の方が手を出す、パッと飛附いて男がポカとやられる、跡で私が、お前は女と喧嘩をして負けて

居る奴はないぢやないかと云ふと、イエ女は敎育がありませんから喧嘩をするとみつともないゆゑ男は喧嘩はしませぬと云ふが、それは奴の負惜みで、實際やれば負けるてす、それだから總ての點に於て女の方が强いてす何ても東洋ては支那ても朝鮮て皇后が威張る者の多いのは不思議てない、それだけで見ると、朝鮮も女が强いから大變與つて行く國になる譯てす、が一向振はないのは男が今申したやうに惰弱てあるからてす、然し女の身體が健康てあるから子が皆大きい子が生れるてす、自然の衞生に合うて居るのてあります、其例は日本などへ來た者などを御覽なさい、皆大きいてす、その大きい統計を取つたのを持つて居りますから申上げましう。

此統計は誰も持つて居りますまい、是は御醫者さん社會ても出來ないことてす、私だけやつたのてす、朝鮮の兵隊と日本の兵隊を比べて統計を取つたのてす、何方も五十三人てす、デ是は平壤の鎭衞隊の兵隊を取つたので、今だから申上げますが、一體秘密にやつたのてす、朝鮮人は裸體になつて見せることを嫌ふ、身體檢査などはやらせない、私は中隊長を能く知つて居るものてすから、壓制て裸體にしたのてす、デ何方も五十三人の內て、朝鮮の兵隊の方から言ふと、身の丈が平均五尺四寸四分、私みたやうな小さなものてはないてす、日本の兵隊は五尺五分、四寸違うてす、それから目方てすが、日本人より少ないてす、朝鮮兵は平均十四貫四百六十目、日本兵は平均十五貫五百三十目、此の弱い原因を申上げますが、身體は大きいてすけれども、目方の少ないのは、早く結婚をするからてす、又たゴロ／＼寢てばかり居るからいけないてす、是等は生理上考ふべき所てす。

それからモウ一つ是も恐るべき統計てすが、向ふの頭の周圍てす、其平均が五十九サンチメートル四〇、日本の頭が五十五サンチメートル八七、四サンチメートル日本兵が少ない、して見ると日本人の方が馬鹿てす、體育の上から言ふと頭は向ふの方が大

きいてす、頭の小さいのは馬鹿としてある、頼朝みたやうな人てなくつちやいけない、一概には言へませぬが、世界中先づさうなつて居る馬ても犬ても猫てもさうてす、犬などは能く分ります、額の出額になつて居らない犬だと馬鹿です、獵犬などは皆出て居る、踊などを踊る犬は皆前が出て居る、それてすから普通の生理上から言ふと、向の方が悧口てなければならない譯てす、然るに腦の發育などの惡いのは、今言ふやうに早婚の結果と、食つて寢てばかり居るので、宜い身體に生み付けられても馬鹿になつて仕舞ふ、腦があつても働かなければ馬鹿になつて仕舞ふのてすから、此邊は餘程研究すべき所てあらうと思ふ。

それから今度胸てす、胸は向ふが八十サンチ一二是は日本の方が宜い、日本の兵は八十四サンチ〇七日本の兵の方が四サンチ宜い、是も原因がある、朝鮮人は寢てばかり居るから、胸の發育の仕樣がないそれから息を吸うと吐出すとの差は向ふの方が宜い八サンチ四一、日本の方は六サンチ六九、是は日本の方が少ない、惡いてす、是はどう云ふ譯てすか、向ふは寢て息をして居るからさう云ふ風になつて居りますかどうてすか、それは能く分りませぬが、兎に角是は日本の方が惡いてす。それから腹の周圍てす、是は向ふが六十五サンチ一九、日本が七十四サンチ四七、是は日本の方が大きいてす。それから足の長さは向ふが九十二サンチ六七、日本が七十四サンチ一六てす。

先づさう云ふ譯て身體は全體からいふと向ふの方が宜いてす、併ながら一方衞生上の狀態がどうなつて居るかと云ふと、非常に惡い、其體格を上中下に分ると、朝鮮人は上が四十八、中が十二、下が三、それから日本の兵隊を分けると上が五十四、朝鮮人に比べると六人だけ宜いてす、中等が八人、下等が一人しかない、天然の身體は朝鮮人が宜いてすけれども、衞生上からの結果日本の兵の方が右のやうな良い狀態になつて居るてす。

それから病人です、五十三人の中で病氣を有つて居る者を見ると、朝鮮兵は三十三人病氣です、それはトラホームもあるし、疥癬もあるし、色々な病氣もありますけれども、皆併せて半分以上病人です、日本の兵隊は只二人だけです、ですから五十三人の中で朝鮮兵は半分以上病氣を有つて居る日本は只だ二人しかない、それですから向ふが百人來ても日本は三十人行つて宜いのです、さう云ふ割合になるのです、それですからどうしても向ふは負けて滅びる譯です。

是は男のことですが、婦人でも矢張さうです、朝鮮の婦人は日本の婦人に比較すると、天然の身體は宜いのでありますけれども、衞生上の結果をいふと殆ど十倍十五六倍も向ふの方が惡いのですから日本の女が一人と向ふの女が十人と云ふ割合になる、又婦人衞生に就ても非常に日本の方が進んで居る、それだから日本の方が段々興つて、朝鮮人が滅びると云ふ譯になるのです、衞生狀態の結果恐るべきものですそれゆゑ日本でも總ての衞生上の注意が皆さんが能く屆かぬと云ふと、今の朝鮮の如くになつて仕舞ひます、今日はまだ申上げたいこともございますが、時間も大分經ちましたから此位に致して置きます。

叢談

不幸なる夫妻

ふ、く、君

世の中には不幸なる夫妻も澤山有りますが、其中でも金が無くて困るとか着物が出來なくて悲しいとか云ふ樣な不幸は、其人達が其の積りに成つて稼げば直に金も出來着物も出來る譯て有るから左程悲むにも及ばぬ。又夫婦中が惡いとか、家內の折合がよく無いとか云ふ樣な事も不幸には相違ないが、之等

は其本人の心掛や、家庭の治め方が善くば如何樣にも避ける事が出來る。兎に角之等の事は人の力で及ぶ事て有ります。人の力には如何にも仕樣の無い事が有るとすれば、夫れが眞實の不幸と云はねば成りません、夫れは外でも無い病氣の苦て有ります。然し病氣だと云つても風を引いたとか胃が惡いとか云ふ樣な病氣は少し養生をすれば、直に恢復をするのだから特に取たてゝ云ふ程の事は無く、又殊に之れを夫婦の不幸と云はねばならぬ譯は有りません。茲に特に不幸なる夫婦と題して述やうと云ふ病氣は、夫婦としての不幸を來し、夫婦共々に不幸となるべき病氣て有りまして、夫れを主として夫婦としての關係の上から述べて見やうと思ひます、勿論申せば限りの無い事だから主なるものを五つだけ述べましやう。

第一　肺結核

之れは夫婦の不幸として第一に算へねば成りません、肺結核と云ふ病が如何に恐るべき病てあり如何に多くの人殊に有爲の若い人を殺し、且つ如何に傳染し易い病氣て有るかは讀者の既に御存知の事て有りまして、世間でも一般に恐れられて居り、皆々十分之れに對して注意して居る樣て有りますから、特に私が今其事を詳しく申す迄も有りませんが、此病氣は其病を得たる個人のみが困るのでは無くて、其家其血統の病と成るので有りますから殊に恐れられるので有ります。肺結核が如何に遺傳するかと云ふ事に就きましては學者の說が種々に分れて居まして未だ一定しない樣て有ります、或人は全く親の病が其兒に遺傳するもので有ると云ひ、或人は決して遺傳するものでは無い其子が肺結核に罹る事の有るのは其家で親の病氣が傳染したので有ると云ひ、其他にも種々の說が澤山に有りますが、今の處最も多くの人に信ぜられ採用せられて居る說は次の如くて有ります。肺結核は決して其子孫に肺結核として遺傳するものては無い、が然し只肺結核の患者の子は多少の素因即ち肺結核に罹り易い傾向を持つて生れて

來るもので有る、斯かる素因を持てる子が肺結核患者の居る家庭に生れて其家庭に育てられるのであるから、左なきだに其病に罹り易い子であるから容易く傳染して小兒の時から既に腺病性の小兒て、發育も體格も惡しくて肺結核の患者と成るので有ると云ふので有ります、此說は實際眞に近いと思はれます、だから斯かる家庭に出來た子を直に引取つて、其父母や其家庭には全く出入せぬ樣にして結核と成る事を免れた例も聞く處で有ります。斯かる次第て有りますから先づ一口に申せば遺傳をするものと云はねば成りませぬ、折角夫婦の間に出來た子が、樂んで育て上げてもそれが肺病に成る傾向が有ると云ふんぢや、其夫婦は隨分心細い事と云はねばなりませぬ。斯の如く子孫の方の關係上不幸て有るばかりて無く、其夫婦間直接にも不幸てある、と云ふのは肺病が夫に有るにしても、妻に有るにしても、其家內て其人の肺病が最も傳染し易い人は云ふまでも無く其妻か夫かて有る、若し今其夫に肺病が有るとすれば、

幸にして其病が妻に傳染せぬにしても、只同衾すると云ふ事が甚だ善く無い非常に病勢を募らす事て成るので有ります、若し又其病が妻に傳染した場合には夫妻諸共に病の苦を受けねば成らぬ、此時に同衾する樣な事が有ては、共に其病氣が加はる事と成るので有ります、若し又倘幸にして斯かる夫妻間に有て妊娠する樣な事に成ると、其爲に又妻の病は加はる事と成る、夫れを漸く十月の間も耐え得て愈々分娩と云ふ事に成るが、之れがなか〳〵容易で有りません、分娩と云ふ事は由々しき大事で有りますから肺結核の患者等に左樣易々と出來得べき事ては有りません、產婦は之れが爲に種々の障害を起して、時には此爲に其命を落す樣な事も稀では有りません。若し此樣な不幸な出來事が無くて幸に母子共健全で萬事都合好く行つたと成つて扨て其子が肺結核の素因を持て生れて來て居るとは實に何處迄も不幸は追ひ來るものであります。扨て以上述べましたる如き不幸を避くる方法は如何と申ますと、如何も病氣の

事て有るから致し方が無い、此不幸を避くる爲の最も適當なる方法は矢張肺結核の患者は結婚を見合はすと云ふより外はありません、結婚してからが不幸な夫婦と成り不幸な家庭を作り加之子孫に迄も禍を殘すので有りますから、寧ろ立派に暫し其念を斷つて十分の養生をした方が善いてしやう、肺病は今日ては最早不治の病ては有りませぬから、氣を變へて十分養生をすれば恢復する、其時に始めて結婚をしても決して晩い事は有りますまい。又既に夫妻と成つて居る人に對しての方法としては、若し事情が許すならば其病人は其妻或は夫の傍を去つて、何處か海邊か山間にても行つて養生をするとか、兎に角夫妻同棲仕ない方が宜しい、已むを得ざる場合には同棲するにしても同衾は謹まねば成りません。若し又夫妻共に病んて居る時等には殊に嚴しく同衾を謹まねば成りません。

第二、心臟病

之れは肺病の如く黴菌によりて來る病氣ては有りませんから傳染する事は有りません、又之れが子孫に遺傳すると云ふ樣な心配も有りません、之れ等の點ては肺病程恐ろしくは思はれませんが、併し傳染したり遺傳したりしないからと云つて決して其病氣が容易なのては無く、患者にして見れは或る意味に於ては肺病の方が未だましだと思ふ事もありましやう、心臟病患者の訴ふる處は種々の事も有りますが胸部の疼痛や胸部の壓感、心悸昂進、苦悶等が其主なるもので有ります。殊に心悸昂進は輕症の者にても必ず來り、少しても力を要する樣な事をしては直に甚だしき心悸昂進が起つて耐え難く成つて來る、だから差し當り各種の運動は悉く廢止せねばならぬ事となる、強て運動をしては自分て非常なる苦痛を覺ゆるばかりて無く、其爲に病勢を高めて、甚だしき場合には心臟痲痺を起して死なねばならぬ樣な事に迄も至るので有る、夫故に遊んて暮して居る人ならばそれてもよいが、仕事が有たり勞働をせねばならぬ樣な人て有ては家庭には大なる打擊と云は

ねばなりません、又之れを直接に夫妻間としての關係から申ます時には、右の如く身體を勞せしむる事が有害なので有りますから、同衾と云ふ事が大に恐るべき事で有る事は申す迄も有りますまい、又幸にして心臟病を持てる婦人が妊娠する樣な事が有りましても、分娩と云ふ事が此人に取ては非常なる大事件で有ります、知らるゝ如く分娩の際には妊婦の苦痛と體力を用ゐる事とは非常なもので有りまして青竹をさへ握り破らうと云ふ位の力を出す程であります、少しの運動をすら恐れて居る樣な心臟を持つて居る人がかゝる事に耐え得らるゝ筈は有りません、だから此時に際しては、心臟痲痺と云ふ恐るべき現象が往々來て其の儘命を落す事と成るので有ります。

第三、梅毒

之れは前二つの樣に直接生命に關すると云ふ樣な病氣ではありませぬが、實に嫌ふべき忌むべき執念深き恐るべき病で有ります、世間では往々梅毒は只感染した當時に下疳、横根次て身體に吹出物でも出來ればそれで濟む樣に思ふ人もありますが、仲々どうして梅毒と云ふものは其樣な簡單な事で濟むものでは有りません、一度梅毒に罹つた者は適當な治療を施さぬ時には、一生涯之れに苦しめられ、終に一命をも取られ、都合惡しくば子孫永々此爲に攻めらるゝ事とも成るので有ります。其恐ろしさを極めて簡單に申ますれば、先づ梅毒に感染して數日にして軟性下疳が局部に出來る、三週間位にして初期硬結が出來る、夫れを第一期の梅毒と申まして適當なる療法を施こせば第五週間位迄には去る次て、第七週間より第九週間位に渡りて鼠蹊や肘や首等の淋巴線が腫脹を來す、之れから梅毒の第二期が始まつて第三月目位に全身の發疹が起つて來る、發疹は體表面にも來り粘膜面にも來る其大小も其形狀も甚だ種類が多い、斯かる發疹を始めとして三年計りの間第二期梅毒の徵候は身體の表面から內臟迄種々の器官に現はれ、貧血とか虛弱とか云ふ樣な一般の症狀も現

はれて來るので有ります、或時は鼻に來て鼻の形を變じたり、鼻粘膜を侵したり、臭鼻を來す事ともなり。時には指の尖を侵して爪が痛んだり爪の下から汗が出る樣な事もあり、時には又毛髮が侵されて、頭の毛は申すに及ばず口髯や腋下の毛や眉毛や睫毛迄も漸次脱落する樣な事もあり、時には末梢神經を侵して神經炎や神經痛を來したり、又麻痺を生ずる事もあります、殊に眼筋の麻痺は著しく眼瞼垂下症を來す事も有ります。時に又骨に來て骨髓炎や骨膜炎と成り、又頭の骨の病から腦膜炎と成る事も有り。時には又腦や脊髓や腦脊髓膜等に壓迫症狀を來して諸種の神經的疾患を來したりする事もあります。時には又眼に來つて虹彩炎を始として其他の諸膜から眼瞼涙腺の病ともなる事もあり、又時には耳に來つて中耳加答兒や內耳の疾患歐氏管にも及ぼして重聽や聾を生ずる事もあります。其他數へ擧ぐれば盡きぬ程も有りますが之れ等が別々に來たり同時に來たり、全治して居るかと思へば又起ると云ふ風に幾度と云ふ事無く、反覆して來るので、病人は勿論之れが梅毒の爲であるとは知らずして、梅毒は二三年前に全治したので有るが此頃は兎角病氣勝で困る等と思ふて居るので有ります。而してまだ之れだけでは無い幸に第二期にさしたる事が無かつた人にもまだ後に第三期の梅毒が控へて居るので有ります。第三期梅毒に固有の形は身體の各種の器官や組織の中に護謨腫と云ふ物が出來るので有ります。之れはつまり結節の樣に出來る細胞浸潤で有りまして、緣の方から順に外に廣がつて、中央部は順に脂肪變性や乾酪變性を成し、或は軟化し或は萎縮して仕舞ふので有ります。此護謨腫と云ふのは凡ての組織に生ずるので、皮膚にも來り、皮下細胞組織にも來り、骨や骨膜にも來る、筋肉に來る事は比較的稀であります。扨て其中で骨に來た護謨腫は何處が多いかと申しますと、頭蓋の骨か鎖骨か胸骨か鼻梁か又は下つて足の脛骨かゞ最も多いので有ります、頭の骨に穴が開いたのや鼻の障子の取れたのや、胸の骨や足の骨の

腐つて居るのは、今こそ少なくなりましたが從來は往々見たもので有ります、喉頭にも屢々護謨腫が來るので、爲に聲帶が侵されて聲が出なくなる樣な事も有り、又は粘膜が侵されて終には軟骨膜が壞疽に陷つて命に拘はる樣な事すらも有ります。又口蓋にも護謨腫が來て爲に其骨に孔が開きて口と鼻との間を通ずる樣になり、又懸壅垂や咽頭後壁にも來て腫れたり潰瘍を起したりするので有ります。時には又口唇や舌にも護謨腫の來る事も有ります。又內臟諸器官にも侵して參りますが其中、肝臟に來ました時には肝炎や肝包炎を起したり、又は肝臟の內部や表面に護謨腫瘤を作つて、肝臟が大くなつたり腹水がたまつたり胃腸の出血を來したりします。又膵臟脾臟腸管殊に直腸等にも護謨腫が出來ます又氣管や食道に出來て其爲に閉塞される樣な事もあり、肺臟や腎臟の內部にも來り、尿道や睾丸にも侵され、顎下や鼠蹊の淋巴腺を侵さるゝ事も有ります、關節の病氣も屢々第三期梅毒から來るので、疼痛や發熱や時には關節が動かなく成る事も有ります、心臟も侵されて種々の障害を起し、血管では殊に動脈が侵されて血行が閉塞される事も有ります。又頭の中の動脈に障害のある時には腦の障害をも起して來る、腦が侵される時には烈しい頭痛が起つたり手足や口がきかなくなつたり、半身不隨や癲癇や痴呆や時には精神病になる事も稀では有りません。又脊髓の梅毒では手足の不隨や、知覺減退や、膀胱や直腸障害等が起つて來る、又五官にも目と云ひ耳と云ひ、それ〴〵各種の障害が起ります。斯の如く梅毒の及ぼす所は實に限りの無い程で有りまして、全身の諸器の疾患の內難かしい樣な分り難い樣な病氣の時には醫者は直に梅毒に疑を置いて其既往症を問ひたゞすので有ります。此恐ろしき梅毒が又非常に傳染し易い物て有る事は世の人が十分知て居らるゝ所で有りまして、夫妻の一方何れかにある時には多くは其他方にも傳染する物て有ります。幸にして夫妻間に感染する事か無かつても其子には傳はるので有ります、

父に梅毒のある時には其人の出す精虫には早や既に梅毒が有つて、夫れに合したる卵は梅毒を持つた卵となるので有ります、幸に父には梅毒が無かつても、其胎兒は母の子宮の中に在る間に母の梅毒は胎盤を傳ふて入り胎兒は梅毒を得るので有ります、まだ人間の形も十分に出來ない間から梅毒に苦しめられねばならぬとは何たる因果な事でしやう、卵の中から此恐ろしい毒を持つて居るのだから此子が完全に育ち難いのも無理は無い事で有ります、梅毒のある妊婦には流產、早產、死產が多かつたり、生れた子も弱かつたりするのは當然であります、漸くにして生れ出た子にも先天性梅毒を持つて居る、即ち聾や眼病や齒の病や發疹や實に見るから憐れな次第で有ります。之れ程恐ろしい梅毒を世間では左程恐るゝ樣子も見えぬのは實に不思議な事であります、之れ一つには梅毒にかゝつた人が後年自分が重病に陷つたり妻も病み子も流產したり出來た子は不具者で有たりしても、それを一向自分の梅毒故とは思はず、醫者に聞かれてもへー梅毒は若い時に一寸やりましたが、と云つた樣な調子だから駄目なので有ります、何卒斯かる智識が世の中に廣がつて一般の人が梅毒を恐れ娼婦に近く樣な事を避け、若し感染する樣な事が有らば嚴しく謹んで妻に傳染する事無からしめ、自分は一時も早く醫に就きて根治する樣に仕度いもので有ります、只一つ幸な事には梅毒は肺病や心臟病と違つて藥の力で治し得るのでありますから、其當座の徵候は去つても常に注意が大切で有ります。

（以下次號）

産婦の養生

K、K、生君

姙婦の養生の事は、大略前にお話いたしました。さて彌々子供が產れるとなれば、それには又色々な注意やら手數やら、一寸素人には分りにくい程な面倒のある事であります、お產の事が大層面倒になり八ケ間しくなつて來たのには深い理屈のある事で、

ソーしなければならない理由の分つたのは、どれ程人間を仕合せにしたか知れないのであります。それほどの面倒があるために、何れの家に限らずお產となると相當な知識のある產婆なり、或は又專門家なりを迎へる事になつて來た。從てお產の時に如何するかといふ細かな事は專業に從事する人の研究すべき問題て、本誌に載せる限りてないと思ふからその事は略しまして、直ちにお產が濟んて後の注意を一言したいと思ふのてあります。

○○

產褥といふのは子供が生れて仕舞つてから、母の身體がもとの通りになるまでを云ふのてあります、即ち姙娠中に起つて來た生殖器並に他の身體諸部の變化も出產の爲めに、出來た澤山な瘡痕も盡く癒つて仕舞ふ迄の時間て、此間が六週間位から八週間位かゝるものてあります。

分娩の時は隨分酷い苦痛のあるのが常てあるから引續き產褥になつてはそれに相應した看護法を取らねばならない。それに就て一番大切なのは

身心の安靜

てあります。姙娠すると子宮の大さに著しい變化のあるのは云ふまでもなく、腹部の筋肉も皮膚も夥しく伸長する。分娩がすめばこれが再びソロ〳〵と小さくなる、又胎盤が子宮の內面から離れるのは草木を地面から根こぎにする樣な勘定で、跡へは大きな瘡が殘るこれも、產褥中に漸々癒つて行くのてあります、さういふ次第てあるから、充分に安靜を保つといふ事が大事な譯になるのてあります。若しこれを守らないと、子宮が居處を間違へて直つたり、腹の皮が何時迄もダブ〳〵したり、或は瘡口から惡いものが這入つたりする樣な結果になるかも知れない。度々云ふ事て、黴菌でも生へさうな古い言葉かも知れないが「生理的と病理的との境界の相近き事產褥の如きものはない」のてあつて、一歩を誤ると飛んでもない病人を造り出して仕舞ふ事になるのであります、婦人科のいろ〳〵な病氣の原因中て一番重要なものは產褥の失敗てあると申してよい。斯か

る分り切つた理屈を事々しく申すのは餘計な仕事の様に見えるかも知れないが、何でも消毒々々といふて消毒熱に浮かされた或時代には、隨分産婦の安靜が侵害されて甚だしい害を貽した例も少くないし、又近頃までソーいふ時代が續いて居つたから一言するのであります。次に

消毒

の事であるが、これは云ふ迄もなく重大な條件で、この知識の發達に因て、恐るべき産褥熱の害が大に除かれる様になつた譯であります。けれども吾々が忘れてならない事は、産褥の安全といふものが主として分娩時の完全な消毒によつて確定せらるゝもので、それに因てのみ産褥は能く無事に治癒する事が出來るといふ事である隨て産褥中の消毒は餘り六ツかしく云ふ必要はない。分娩時に消毒を怠るといふ事は返す〴〵も大なる過失である。既に産褥中に入つて種々面倒な消毒法をやるのは、徒らに産婦の安靜を害して、瘡痕の治癒を妨げ生殖器其他の復舊工事を阻害する計りである。

産婦は少くとも九日間、若し必要ならばもつと長く床上に安臥せねばならない。始めの二日は背部を下にし、それから少しづゝ注意して身體を動かし、折々は左右の側位置を取る様にしても宜い。子供に乳を呑せたり、食事をしたり、或は小便などをするために床の上に身體を起すといふ事は始めの數日間は嚴禁して置かなければならない。産婦が早く起き上つたり、立ち働いたりするのを自慢にする人がある、これは分らずやのする事で、花瓶を破つて手柄顔をする太郎よりも仕末がわるい人間であります。

産室

産室は成るべく大きな、空氣の流通の好い室を撰むべきであります、室の溫度は華氏六十五度位にして一様に保つ様に工夫する方がよい。薄暗い様な小さな室へ引き込ませる習慣の處もあるけれども、これは間違つた考へてある何も無理に室を暗くする必要はない、のみならずそれは却つて有害な事がある。

新鮮な空氣が室の中へ澤山に進入して來るのは、瘡痕の治癒を速かにする利益ばかりでなく體力の回復も大變に速められるのであります、敷物の汚れたのやら、子供の襁褓のきたなくなつたのは可成早く室外に出して仕舞ひ、塵垢の附着する樣な餘計な物品は室内に入れて置かない方がよい、被けるものなども産婦の要求する通りにしてやればよい、産婦は直ぐに發汗しやすい、殊に睡眠中に發汗する事が多いがこれは被布を薄くし、空氣の流通を具合よくすれば大抵はなくなるものである、無理に發汗を促すのは不必要な事でそのために害を來す事もある、床へは産の時と同樣に敷物を敷いて所謂惡露でもつて床が汚されぬ樣にしなければいけない。

産婦の精神を使はせる事、感情を激動させる事は申すまでもなく惡い事で、殊に最初の一週間は皆が愼んで之を避けねばならない、若し一人の姑があつて産褥に居る嫁を苛待めたとしたらば、他の時はいざ知らず、少くとも此時に於ては人道の罪人と呼ばれても仕方はないのであります。姑には限らない誰でも同じ事である、斯ういふ次第で産婦の精神は極めて安樂でなければいけないのであるから、産婦の室へは醫者と世話女の外には近親の人々だけに這入る事を許し、それも成るたけ度數を少く、這入つても長く居ない樣に心がけさせねばならぬ樣な譯である、産婦が家政を執つて居る人であればこの間だけは止むを得ないから、外の人にその重荷を脊負つて貰はねばならない。

斯うは申しましても家の事情やら何やらで、ソー誂へた通りにやれない婦人が多數である事は殘念な次第であるが、事情の許す限りといふ事を條件にして成るべく此樣にしたいものだと思ふのであります。

食物

は其時の食慾と平生の習慣とに從つて行けば宜しいのであるが、まづ最初の三日位は食慾も少いから牛乳、ソツプ、肉汁、おも湯、鷄卵といふ樣な普通の流動食で充分で、茶、珈琲なども平生呑みつけて居

た人は呑んでも一向差支へはない、食慾の盛な人には粥と少量の柔かな肉位やつても宜しい、四日目からは追々固形性の食物を與へ、第二週或は三週に入つては最早や常食にして宜しいのであります。自分て乳を呑ませて居る人は、呑ませて居ない人よりも澤山な營養分をとる必要があるのは明白の理であるが、不消化物を食べ過ぎると胃腸を損じ易いから、それは氣を付けなければいけない。

便通

產後三日を過ぎてまだ便通がなければ、蓖麻子油一食匙(十五瓦)を投與するが宜しい。四日以後は毎日一回宛の便通がある樣にせねばならぬ、若しなければ灌腸の必要があります。

尿通

尿を過度に堪めて置いてわるい事は曾ても申した處であるが、若し尿の通じがないならば、腰の周圍に溫かい濕布繃帶を卷いて外陰部を微溫湯で靜かに洗ふ樣にすると宜しい、大抵この位の事で尿の通じがつくが、どうしても出ない時にはカテーテルで取らなければならない。カテーテルを使ふには產褥中は外の時と違つて非常に嚴重な消毒がいるので、少しく疎忽にしたならば必ず膀胱加答兒を起す樣な目に逢ふのである。カテーテルは使用に先つて必ず煮沸しなければならない、若し醫者がこれを怠つて居たならば產婦の方では充分嚴重な消毒を請求する權利があるのであります。尿が自然に排出せらるゝ迄は六時間乃至八時間置に一回宛カテーテルを入れる必要があります。

淸潔法

子宮内面に瘡痕の存して居る間は、絕えず惡露の流出があるので、隨て外陰部も常に汚れて居る、故にこれが淸潔法を講ずる事は決して無用の業ではない、と云つた處で段別甚だしい面倒がある譯ではなく、煮沸水か又は百倍の石炭酸で靜かに外陰部を洗滌し、淸潔な綿で後を叮嚀に拭き取つて置けば宜いのであります、最初の一週間は毎日二回宛やらねば

ならぬ、洗つた後へは又清潔な綿を宛てゝ置いて惡露で浸されて仕舞つたら新らしいのと交換をする、浸された綿は燒きすてるのが一番安全であります。便通の後にも同樣に淸潔法を施行するのが宜しい。通常の産褥には膣の洗滌をする事は徒らに害あつて益なき事であります。

産婦は二週（最も早くとも九日）の後には每日數時間その臥床を離れる事が出來るけれどもこの第三週の間には運動をする事はまだ控へなければいけない。四週を過ぎなければ自分の家から外へ出かけてはならないのである、體格、營養、又は身體の抵抗力等に隨て以上の規則には色々變化して宜い餘地があるが、醫者の言を用ひずして勝手な行働をとると後に子宮の位置を惡しくして思ひ設けぬ困難を來す事があるのであります。

産婦は熱のないのが普通なので、若し三十八度近くの熱が出れば多少首を傾ける必要がある、産後には産褥熱が一番恐ろしい病氣であります。それ故に産後の一週間は每日醫者の診察をうけて體溫、脈搏、子宮の高さ、惡露、便通、尿等の具合をよく檢査して貰ふ方が宜しい、それから産褥の終りに方つて一度よく診察をうけて子宮の位置が正しく回復したか如何かを確かめて置くのは非常に安全な仕方であります。

活ける家（續き）

醫學士　渡邊房吉君

（九）活ける家の喞筒

人體と云ふ活ける家には、血液と云ふ生命の泉を、汲み入れては汲み出し、之を全身に行き渡らせて、身體各部の榮養を保たせる喞筒がある。飲食物は一週或は二週の間之を口に送らずとも一向平氣なこともあるが、若しも喞筒の機能にして一朝停止することがあれば、何人と雖も死を免れぬもので、凡そ活き

とし活ける者の生死の鍵は、實に此喞筒の中に秘藏されてあると云ふても差支へは無く、其人の活潑なるも不活潑なるも、健康であるも健康で無いも、働いて疲勞るも疲勞ないも凡て此喞筒の具合の善いと惡ひと、其運動の活潑なると不活潑なるとに直接なる關係を有するものてあります。此重要なる喞筒の名を

心臟

と云ひ、活ける家の中心である胸廓の中に据え付けられ、夜となく晝となく絶へず働いて生命を保たせて居ります。左の胸の乳房の邊に手を當てゝ、確に胸の衝動のを觸れ、耳を當てゝ明に音の發するのを聽くのは、即ち心臟の働いて居る證據てあります。

心臟の大さ

は殆ど其人の拳位のもので、嬰兒の心臟は愛らしい楓の樣な手を結んで拳とした位、相撲取りの心臟は其鬼の樣な大きな手を握り詰めた位てあります。然かしながら肺及び腎臟の病氣脚氣、レウマチ等の時には心臟が其人の拳よりも遙に大きくなることがあります。

心臟は右と左と

に分れて居り、此左右の心臟は又各々上下の二つに兩分されてゐる。上なるは耳の形に似てゐるより心耳と云はれ、下なるは心室と稱せられて心耳よりは稍々大きい。左右の心耳心室には、喞筒につゞく護謨管に相當する

血管

が連續てゐて全身に行き渡つてゐる。右の心耳につゞいてゐるのが上大靜脈幹と云ふのと、下大靜脈幹と云ふのとの二ツて、上大靜脈幹は頸部から頭部へ掛けて其用を全うし終つた

靜脈血

と云ふ古い血を運搬し來り、下大靜脈幹は足の爪先から腹の臟器及びその他の處から、同じく靜脈血を汲み上げて來て、共に右の心耳に注ぐ。心耳

から右の心室に流れ、心室から肺に行きて肺の中の空氣から清められて再び新しい血と變り、次に左の心耳を經て左の心室に入り、そこから

大動脈

と云ふ血管を傳はつて全身に新しい血液を分配する。此血液が再び古くなれば又も靜脈を傳つて右の心臟に戻つて來、次で肺で潔められて左の心臟に入る。かゝる順序て血液が全身に行き渡るのを

血液の循環

と云ふので、即ち血液循環の本元は心臟であります。故に心臟に病氣があれば。血液の循環が惡くなり、手、足、眼瞼などに浮腫が來て、皮膚の色澤も惡くなり、息分れ及び動悸がして、少しても骨折れ仕事の出來ぬ樣になります。喞筒の具合の惡くなるのは多くは瓣の惡くなるのである樣に、心臟の病氣も多くは心耳と心室との間、若くは心臟と血管との間にある瓣の具合の惡くなるので、之を

心臟の瓣膜病

と云ひ、急性レウマチスが其原因であることが多いのであります。其外心臟の肉が惡くなり、肉の周圍の心嚢が病氣になることもあるが、要するに醫者から心臟病だと云はれたらば

其養生法

としては、身體を安靜にし苟且にも過激な運動をしてはならぬ、世人が「心臟の惡い人には海水浴は良くない」と云ふのも、畢竟は海水浴が過激の運動てあるのを示すもので、登山ても、自轉車乘りても、テニスても、ボート漕ぎても凡て肉の働きの度を超ふるものは之を避けねばなりません。深呼吸は妨げない、過激てない運動は之に耽つて度を過ごさぬを限りとする。沐浴するには湯の加減に注意して餘り熱いのを避け、又一日に幾度も浴するのを忌む。

精神を安靜て苦勞心配などをせぬ樣にし、多少氣にかゝる事があつてもナニ氣を揉むには及ばぬと我と我身で打ち消す樣にし、氣に食はぬことを見、癪にさわることを聞いても目は素通し眼鏡なり、耳は

容れものなりと觀念して苟も心の平和を取り亂さぬ樣にする。此錯綜複雜せる世の中にあつて些細な詰らぬ事に迄も、一々思慮を費す樣にすれば、恰もバケツトを以て大海の水を汲み乾そうとする樣なものて、到底不可能のこと、終に氣を揉み切つて仕舞ふと云ふ計りてあります。これだけの心掛けは何の病氣の時にも、或は平素健康の時にも必要てあるが、

取り分け心臟病の時には必要てあります。何故かと云ふに心臟は精神感動に對して特別に深い關係を有するからて、即ち我活ける家の主人たるべき腦髓に對して切るに切られぬ關係を有するからてあります。例令ば他人から惡口されて憤怒の焔一時に燃え立つ樣な時、思ひ設けぬ吉報に接して我を忘れて喜ぶ時、其他悲しむ時、樂しむ時、愛する時、惡む時、凡そ七情の動く時には心臟の機能は必ずはげしくなつて、早鐘の如き鼓動は須臾は止まぬものてあります。これは何人も經驗するところて、「胸の轟」或は「動悸の納まらぬ」と云ふのはこれてあります。餘り烈しく感動すれば遂に憤死、泣き死に、嬉し死に等もあるものて歷史上其類例に接することが多いのてあります。古來

情は心臟の中に宿るものと思ひ込んだのも、恐らく以上の樣に腦髓の感動が直ちに心臟に傳はるたのかと思はれます。今日ても青春と云ふ花の香りに醉ふて居る若き男女の物語りをお聞きなさい「ハート」と云ふ一語は情と云ふ意味に使はれて、これを聞くこと恰も天來の福音に接するかの樣に心得、之がために無益なる狂喜煩悶を重ぬるのてはありませんかされど情の本宅は至聖所てある腦髓にあるもので、愛するも惡むも、考ふるも感ずるも、勇み立つも恐ぢ怖るも若くは悼み悲むのも、凡て本宅て行はれるもので、只心臟は此精神感動に影響することが甚大しいと云ふ迄てあります

心身の安靜に次て必要なのは

飲食物の攝生

であります。軟かい消化易い、滋養分に富んだ食物を程よく攝り、苟且にも暴飲暴食に耽つてはならぬ。食事の時間は一定し、間食は嚴禁する。酒類、茶、咖啡等の様な刺戟興奮させるものは一切口へ近か寄せてはならぬ。煙草も悪い、西洋では「ニコチンハート」と云つて煙草のために心臟を害するものが多い。

日々通利を調へ

宿便を腸の中に溜めぬ様にし、上圊しても怒責せぬ様にする。冷水浴は餘り過激である

肥滿して脂肪の多い人は、起居が不自由て、運動及び立ち働らきが嫌ひになり、從て心臟の働らきが鈍くなり、其力も漸次弱くなるもので、かゝる人が少しく運動すれば息切れがしたり、動悸がしたりして到底長く堪へられるものでない、一朝不幸にして高い熱の出る病氣にても罹ることがあれば、心臟の力は割合に早く弱つて仕舞ふものであります。故に讀者諸姉のうち脂肪肥滿のある方は、絶へず少しづゝ運動する様に心掛け、漸次心臟の力を増す様にしなければなりません

心臟の鼓動

は一分間に初生兒では百三十位、三歳位では百、三十歳の成人になれば六十五乃至七十五位であります。これが色々の病氣によつて變つてくる、故に醫士は之によつて病氣診斷の資けとするのであります

衛生生活の一日（承前）

東京醫科大學　A. B. 生君

第二十七　室内は如何に溫むべきか

冬季には室内の空氣も餘程に寒冷に成りますから何等かの方法を以て溫めねばなりません。然らば一體吾人に必要なる

室内溫度　は何度位ならばよいかと云ふに、概して所謂住室は十八度乃至二十度位が適當であります、

工作室は仕事をする室で有るから十三度乃至十五度位で宜しく、小兒室は小兒は溫を奪却せらるゝ事が割合に多いから二十度乃至二十二度で、病室は十六度乃至二十度、寢室は十三度乃至十五度が適當で有ります。

これだけの溫度にする爲には溫室の方法としては非常に日當りのよい室ならば晝間は日光の爲に溫められて居りますが、夜間に成つたり曇つた日などは日光を利用する譯には行かぬから是非共何か人工の溫度を採らねばならぬ、それには燃料としては炭、薪、石炭、コークスの樣なものを用ゐたり、又近來は蒸氣や湯を管で通す樣な方法もありますが、同じ材料を用ゐても其應用が拙い時には其功が極めて少ないもので有ります。薪炭を燃しても、用ゐた薪炭が盡く燃ればよいが、多くはそれがある部分は燃えて一部分は燃えないで酸化炭素や炭化水素や煤の樣なものに成つて立つて行くものであります。また折角燃えた物も其溫を巧に利用しないと、室を溫むる爲には用ゐられないで溫められた空氣は室外に逐り去られて仕舞ふ樣な事が有ります、ある裝置法によれば發生せる溫の九十五プロセントは全く室外に逸去すると云ふ事です、之れでは實につまらぬ事と云はねばなりませぬ。そこで溫暖法の裝置も隨分種々ありますが先づ

衛生上溫暖法に必要なる條件　と云ふべきものを左に掲げて見ましやう

一、室内を溫むるに十分の溫を出すものならざるべからず。

二、外氣溫は常に變化するものなるが故に、溫室裝置にて發する溫は其溫量を自由に調節し得るものならざるべからず、然らざれば時として溫きに過ぎ時としては寒く感ずる事あり。

三、室内の空氣を溫むるには、發溫體よりの溫の放散によりて溫むる事を主とせずして、傳導に依りて溫むる事を主とせざるべからず、放散のみならば溫源に面する身體の部分は暑くして他

の側は寒く大に不快を感ずるものなり。
四、室内を温むるに、獨り空氣を温むるのみならず、周圍の物質をも平等に温むる如くならざるべからず、然らざれば空氣の温は高くとも放散により壁等に温を奪はれ、人は寒さを感ずる事となるべし。
五、温源は温度比較的低くして温暖面の廣きものを要す。かくすれば放散によりて温むる事を減ずるを得べし。
六、燃燒生產物として種々の有毒の瓦斯を多く出し又は煤、塵埃等に由りて室内を汚染する事無きものたらざるべからず。
七、可及的室内の空氣を平等に温めざるべからず
八、空氣を乾燥せしむべからず、「然らざれば喉部に乾燥の感を來す。
九、温暖装置は可及的清潔に成し置かざるべからず。
十、温暖装置は之れと同時に換氣装置の作用を具ふる者たらざるべからず。
十一、其價低廉にして火災の懼れなきものたらざるべからず。

以上は理想的に申した迄で有りまして、一種類の温室装置にて之等の條件を悉く備へる樣な事は決して望むべからざる事であります。只種々の方法を採る時に、少しても此條件に近づく樣に御參考の爲に記したので有ります。

日本家屋の温室装置 としては近來は種々の新しき方法や、西洋風の温室法も行なはれて來ましたが最も多く行なはれて居るのは矢張火鉢、爐等で有ります。此方法では燃料として用ゐる薪炭より生ずる瓦斯の類や煤の如き者は悉く室内に入るので有りますから、餘程注意して換氣を怠りなくしないと空氣は汚染して害を及ぼしますだから、之れは西洋風の室内には決して用ゐる事は出來ませんが日本家屋は風通しが好いから害が少ないので有ります。併しそれにしても燃料は可及的燃燒し易い物を用ゐねば

なりません、炭のいぶるのを使ふ爲に頭が痛くなる樣な例はよくある事て有ります。望むべくんば十分燒いて赤くなつたのを入れて置く樣にすれば害は少ないのてあります。又此方法は前の第三條件なる傳導によりて温めると云ふので無く、火鉢の炭火よりの放散によりて温めるのてありまして火鉢に向いて居る方即ち手や面は暖だが背の方が寒いから不愉快な樣な事があります。併し此法は燃燒によりて得たる温度は室外に逸去する樣な事はなく悉く室内を温むる爲に用ゐられて居ますから、其點には別段不利益はありません。

炬燵 は已を得ざる場合の外は成べく用ゐぬ方がよい。之は小さい物の上から大きな布團をかけてあるから、空氣の流通極めて惡しく其爲に燃燒を妨けられて、酸化炭素を發生する、此瓦斯は人體に甚だ有毒てあります、此有毒な瓦斯が布團に蔽はれて居るから出て行く道がない一ばいにたまつて居る。此炬燵にあたつて此布團を着て寢る人が有る、中の有毒の瓦斯は人の寢て居る所に僅の隙が出來たから此處から出て來る、出て來る所に丁度其人の鼻があるから、瓦斯は多くは鼻の中へ吸ひ込んて仕舞ふ。斯の如くにして目覺めた時に頭痛のしない譯が無いのて有ります。だから炬燵に入れるには決して半燒の炭等を用ゐてはなりません。此他日本にて往々用ゐられて居る裝置を擧ぐれば

カミン と云ふのは、西洋風の室の壁の内に煙突を裝置して、其下端を室の方に開き、此處て石炭なり薪なりを燃す樣にしてあります。之れは或意味に於ては室の裝飾品て、此上に一寸した棚があつて化粧道具ても置かれ其上には大きな姿見の鏡を置てあるのが常てあります。此中て燃した煙は悉く煙突から逸去して仕舞ふがそれと共に生じた温の大部分も持ち去られるので、用に供せらるゝ温は僅々五プロセントに過ぎないと云ふ甚だ不經濟の裝置て有ります、加之此法は放散によるので有りますから室内を平等に温むる事は出來ません。併し換言の點は十

分て有ります。

暖爐は多く用ゐられて居ます。學校、寄宿舍、役所、會堂等には專ら之れを用ゐて居ます、鐵製の圓筒で燃料を送る口が上に、空氣を送る口が下にあつて別に上部から煙突を附ける樣にしてあるので有ります。之れも矢張放散に依るものではありますが、何か金屬の蓋物でもかけて面積を廣くし溫を低くし、煙突を長くして室内を導く樣にしたら餘程有功なものと成りまして、生ずる溫の五〇プロセント迄を利用する事が出來ましやう、又之れは下の空氣を送る口を自由に大小にする事が出來ますから、それて空氣の量を變じて燃燒を調節するに適當であります。又近來は瓦斯の使用の途が廣くなるに從て暖爐にも瓦斯を用ゐる事もあります。何れにしても考ふべき事は煙や煤の排泄口を十分注意する事で有ります、煙突に煤がたまつて煙が十分に通らない樣な事があつては、衛生上甚だ有害であるばかりで無く、時には火災の原因とも成る事が有ります。また近來日本風の室内に備付る爲に煙突の附て居ない暖爐を賣て居ます、それにはそれ〳〵の理屈が附いて居て衛生上別段差支の無い樣には云はれて居ますが、之れは甚だ宜しく有りません。原料として何を用ゐるにしても煙は皆室内に出るので有りますから、目には見え無くとも害の多い事は確て有ります。

以上述べましたのは只日本に現在行はれて居る方法ばかりで有りますが、此外カミンにも暖爐にも種々改良された種類がありまして害が少なく功の多いのが澤山あります。以上は皆個人の家に於ける裝置としての物で、溫めんとする其室内で溫を作つて其部を溫むる方法てありますから、之等を總稱して局所溫暖法と申します、此外別に中央溫暖法と云ふのが有ります、之れは如何するのかと云ふと別に一ヶ所に於て溫を作つて、其溫を一定の裝置に依つて導いて、溫めんとする室々又は家々に送り、一時に一樣に之等を溫むる仕掛て有ります。此方法も我國て

も隨分行なはれて居ます。大な病院とか、會社とか學校とか、役所とかに用ゐられて居ます、此方法によれば薪炭を室內に入れる必要が無いから其爲に室が汚される事も無く、灰が飛ぶ樣な事もなく、煙や有毒瓦斯て空氣を汚される事も無く至つて室內は淸潔て有りまして、其上また度々炭や薪を入れたり石炭を掬ひ込んだりする面倒も無く、室內の人は無爲にして暖を採る事が出來る、又一度温が來ればさめる恐は無く間斷なく來るから甚だ便利て有ります。併し何分之れは大仕掛の事て有つて、其器械や設備が少々の金ては出來ないから個人向のものては有りません。扨て此中央温暖法とは如何なる方法かと云ふに之れに四種あります、之れを極簡單に說明して置きませう。

一、空氣温暖法　とは西洋建の樣な數層から成つて居る家屋の最下層に空氣を熱するの一室を設け、玆に鐵製暖爐を備へて空氣を温め、温めた空氣を順に上層にある室に送るのてあります。送る空氣の温度は五十度以下にし、通氣管に瓣を以て温を調節するので有ります。

二、蒸氣温暖法　とは蒸氣罐て蒸氣を造つて之れを鐵管を以て各室にある温暖裝置に導き、其裝置內て蒸氣の一部が熱湯と成つて自己の潛熱を發し、此熱にて室內の空氣を温むるのて有ります。

三、温水温暖法　とは家の下室に湯罐が有つて湯を作り、之れを鐵管て家の上部に送り湯溜に入れ、之れを又鐵管にて送りて室內の温暖裝置に入れ、室を温めて冷えたる湯は又鐵管にて罐の方にもどすのて有ります。

四、熱水温暖法　とは温水温暖法と似て居ますが之れは別段種々の裝置なく只悉く鐵管て之れに熱湯を入れて通ずるのて有ります。

講義

衛生學大要（承前）

醫學士　河野衛君述

家屋

の事に就いて御話し致しましよう、家屋の目的は吾々の體温の調節を容易にするのであつて、外氣の關係上どうしても、家屋の中に居らなければなりませぬから、人爲的に吾々の身體に適當な氣候を造るのであります、それから家屋は風雨の進入を防ぎ、それから財産の安全を計る目的を持つて居ります、昔は野外で仕事をする事が多うありましたけれ共、世が進歩するのと共に家の内で仕事をする事が盛んになつて來ました、それて吾々は生涯の大部分は屋内て仕事をして、極く小部分住居の外に居るのてあります、それ故に家屋の構造が不完全であれば、其害を蒙むる事も甚しいものであります、殊に都會の人家稠密な所では、衛生的の家屋を建てるといふ事が困難てありますからして、家屋の建築に就いては一層の注意を要するのであります、西洋では建築條例と申すものがありまして、此れて以て家屋の建築を監督致して居ります、家屋といふものは前に申しましたやうに、外界に對し、吾々の身體を保護し、雨風を防ぎ、體温の調節を計る極めて大切なものであります、それ故に建築に注意を配らなければなりませぬけれ共、もし其構造が不完全であつたら、其害も亦甚しいので、屋外よりも却て大なる不利を蒙むるやうな事もあります。

家屋の中では仕事を營み、睡眠し、住居するのてありますから、此れに應ずる室を備へなければなりませぬ、屋内に人が住居すれば、人の生活現象の爲めに、色々な變化を起して參ります、其變化と申しますのは、吾々を取扱いて居る所の外界即ち水土地

それから空氣デスナ斯ういふものに對して變化を起させまして、吾々の健康上有害で不快な現象が起つて來ます、それ故に家屋の構造といふものは、斯くの如き諸般の障害を人體に與へないやうにしなければなりませぬ。

狹い所に多數の人間が生活をして居りますと、人の生命と健康とに向つて、危險のあるものである事は大抵誰でも知つて居る事でありまするが、統計の上でも明かな事實であります。

多數の人が狹い所に共同生活をするのは下級のものに多くなる事で、營養も不充分で、衣服も亦不充分であるから、生命も短いのであります、それから此ういふ狀況の下にある家屋は不潔な、健康上有害な土地に建てられるのが多うありますから、色々な原因が集まりまして、健康上に及ぼす害といふものは中々大したものであります。

三

昔人文の未開な時代では、萬事が簡單で事が濟んだものでありますから、只だ必用を充たしさへすれば――必用を充たす事が出來なかつたかも知れませぬけれ共――それで宜しいといふ極めて簡單な考へで家を造つたものでありまして、今日と雖も、ドーカすると昔のやうな單純な考へで家を建てるものが無いでも無いが、前に申し述べましたやうに複雜なる今日では、家屋の建築といふ事には、諸般の知識を應用しなければならぬのであります。

市街を建設するに當つても、後世の人々にも害を及ぼさぬやうに設計をしなければなりませぬ、水道を設けるとか、下水を備へるとか、或は市街の方向、市街の幅、空氣、光線の具合抔に細心顧慮しなければなりませぬ、只だ今日主義で、當坐の間に合はせる事ばかりやつて居ては何の役にも立たぬ、豪い人には先見の明があるが、凡庸な人間には兎角先きが見えぬ、緒言の所でも嘗て申し述べましたやうに、昔でも文化の發達して居た國々では、夫れ〳〵市街、家屋の事に就いて衛生的の設備がしてあつたものであります、イヤ此注意を缺いては、國の發達は到底

望み得べきものては無いのてあります、是れから先づ市街の事から御話申しましよう。

市街

市街を設置するに當りましては、其土地は高燥て、清潔て、不潔物の無い所を撰み、濕つて居る場所を避けなければなりませぬ、濕潤な土地てあると、マラリアの發生する危險があり、且つ其所に建てられた家も濕潤しますから、衛生上良く無いてす、濕潤の地を乾燥にするのには、導水管を地下に設けて、水を除去する事があります、即ち是れは人工的に地底水を下げるのてあります、前に申しましたやうに地底水が土地表面に近いと、其土地は濕潤てありますから、此地底水を下げますれば、濕潤を免かれるのてあります、或は水分をヨク吸ふやうな樹木を植える方法もあります、例へば日廻草のやうなものを植えるのてあります、その次に市街に種々の異なつた職業者が一所に混合するのは宜しくありませぬから、工場は工場、商賣は商賣と各々職業に依つて一定の所に位置を定めるのが必要てあります。

市街道路には種々な種類がありまして、例へば市街の中心から、道路が放線狀に走つて居つて、此れを環の形て結び合はして居るのがあります、此の式を放線式と申します、それから、中心を市街の中央に置きまして、是れから道路が走つて居て、此れを三角形に結び合はせるのがあります、是れを三角式と申します、それから京都の街のやうに碁盤のやうになつて居りまして、平行の道かイクツもあつて、此れに直角な道路て結び合はしてあるのを名けまして直角式と申します、此放線式と三角式とは、市街に繁盛な所と閑靜な所との區別を生じますから都合が宜しうありますけれ共、直角式といふのては、人の通行が平等てありますから、閑靜の場所といふものがありませぬ、多くの巷は大抵上記三式を混合したものてあります。

市街道路の向は東西或は南北とせずして、其中間位が宜しいのてあります、例へば東西とします、と北

側の室は日光を受けず、南側の室は絶へず日光を受けますから、一家の中に温い室と寒い室とが出來まして、温度の不平均を生じ、此の結果として、往々感冒に侵され易いものであります、然るに道路が東北から西南に通じて居りますと、兩側の室共に平等に温度を受けるのであります。

それから道路には、人道と車道とを區別します、東京でも人道と車道の區別のある所は尠なうあります、道路の四分は人道に充て、六分を車道に充てます、歐羅巴では主に馬車で交通して居りますから、馬車の幅で道路の廣さを定めるやうになつて居ります、馬車の幅を二米突半とすれば、二馬車が並行するには五米突を要します、人道は少く共一米突を要します、市街の全幅員は、八間から十八間位であつて、東京でも十八間の所があります、けれ共此れは至つて稀であります、それから人道と車道との間には溝を造りまして、之に向つて少しく勾配を有し、雨水の流れ込むやうにし樹木を植えまして、塵埃が家の中に入るのを防がなければなりませぬ。

市街の地面道路は固くて、破損せず、不潔物を有せず、塵埃を發生せず、且つ洗ふ事も出來、歩き易くて、歩行の爲めに音響を發しないやうにしてなければなりませぬ、其市街道路を造るには亦色々な方法があります、第一は東京市で用ひて居るやうに小砂利を敷くのでありまして、之を「マカダム」と申します、之れは塵埃を發生し、雨が降れば泥土を殘すといふ不利があります、第二には石を敷くのでありまして、歐羅巴では、廣い石の板を敷き詰めますけれ共石を敷くと音響が強くて堪りませぬから、近來此法を用ふる事は次第に尠くなつて參りました、第三は木を敷くのであります、木は音響を發しませぬけれ共、汚物を吸ひ込みまして、臭氣を發しますから良くありませぬ、第四は「アスフワルト」といふのでありまして、是れは完全に近いものであります。

凡て道路といふものは掃除をしたり、水を撒いたり致しまして、可成空氣を清潔にしなければなりませ

ぬ、東京では市街に塵埃の多い所から常に水を撒いてありますけれ共、時としては水の撒き方が多う過ぎまして、丁度雨でも降つた時のやうな有様となる事があつて、甚だ閉口てあります、アレハ塵埃を立たせない程度に撒水すべきものであろうと思ひます。

それから市街を設くるに就いては公園を設けるといふ事は極めて肝要な事柄てあります。

家屋の建築

家屋を建つるには、空氣が新鮮て、光線の射入が佳良な所を撰み、又家の構造を良くして此條件を備へるやうにしなければなりませぬ、さりながら都會ては、田舎の如くに、衛生的の家を建てるといふ事は中々容易てありませぬから可成之に近いものを建つるやうに注意するのが必要てあります、歐羅巴ては市街に少くとも三分の一の空地を殘し殘りの三分の二に家屋を建てまして、道路に向いた方には多く空地が殘してあつて、之れに木を植え、道路の塵埃が家屋の内へ這入つて來るのを防いてあります。

家屋を建つる場所は前にも申しましたやうに高燥の地てなくてはなりませぬ、高い乾いた地は傳染病の流行する事が尠うありますが、低い濕つた地ではコレラやチブスのやうな病が多く發生いたします、それから斜面になつて居る土地に家を建てますと、高い所から水が流れ下りまして、濕潤しますからいけませぬ。

家の高さは市街の幅を超えてはなりませぬ、例へば家の高さが一なれば相對する家屋との距離即ち道路の幅は一てなくてはならぬ、或は家の高さが二て道路の幅が三といふ比例ならば最も宜しいのてあります、此場合には道路の幅は家の高さの一倍半の割合に當ります、何故であるかと申しますと、道路が狹くて、家の高さが無暗に高いと光線の射入が不良になつて來るからてあります。

家屋は餘り高くてはいけませぬ、何故なれば上の方の室は溫度の調節が困難になりまして、夏に於ては

周圍の壁の温まるのと、下の方の室で生じた温い空氣が上の方に昇つて來ますから、大變に暑くあります、冬は之れと反對であつて、上の方の室は風を遮るものがありませぬから、傳導の爲めに温の奪はれる事が甚しいから、其室は甚だ冷うあります、それ故に餘りに高い家屋は不利益であります、それから高層の室に住んで居るものは其死亡數が常に多いといふ事であります、西洋では極めて高い家屋が多くありまして、幾層となく高くなつて居りまして、此の高層に住居するものは無論貧民でありますから色々な衛生的で無い事柄が多いに相違ありませぬけれ共、此温の調節がウマク行はれないといふのは主なる原因でありませう、兎に角高層に住居するのは衛生上宜しくありませぬから、獨逸では普通の家屋は五層を以て限りとしてあるそうであります。

家屋の大さは、其中に生活する人の多少に從ふて斟酌しなければなりませぬ、狹い室に多數の人が一緒に居住するといふ事は、何れの點から言つても宜しくありませぬ、殊に適當なる空氣の交換が出來ないから、衛生上極めて宜しくありませぬ。

室の具合は其用に應じて區別して置かなければなりませぬ、吾々の日常最も永く居る室は衛生上最も適當した室でなくてはなりませぬ、それで南に向いた日當りの最も良い室を吾々の居室、小兒部屋抔に充て、臺所、食堂湯殿のやうなものは、北側に置き、西向の室を寢室にするといふやうな注意が入ります。

光線は充分に室内に射入するやうにしなければなりませぬ、それで窓の大さを充分に大きくすれば宜しうあります、學校のやうな建物では窓の大きいのが必要でありますから、窓の大さは床の大さの六分の一以上と定めてあります、普通の家では十二分の一以上といふ事になつて居ります。

それから窓の高さも注意しなければなりませぬ、餘り窓が低いと光線が充分に室内に入りませぬ、それて窓は一定の高さが定めてありまして西洋の家では

二米突半から三米突としてあります。

それから家の大さと地面の割合にも注意を拂はなくてはなりませぬ、地面を百としますと、家屋の大さは七十五から八十五位の比例にするのであります

是れから家屋の各部に就いて御話いたしましよう

床　床の造り方は日本の家屋と西洋の家屋とは相違がありますけれ共、何れも空氣を通過せしめないやうにするのが目的であります、西洋の家屋では其下層は窖になつて居りますから茲では地中の空氣が侵入しまして、空氣は濕潤して居ります、不潔な土地で分解作用が盛であれば炭酸安母尼亞、硫化水素のやうなものが這入つて來まして、空氣が汚されますから、床を造るには不透性のものを撰まなくてはなりませぬ、それで此窖に居住して居ると、其底は直接に地面に接して居りますからして、溫が地中へ吸ひ取られますから、大變に寒冷に感じます、それてありますから更に今一つ床を造りまして、兩床の間の空氣に依つて、室内溫度の傳導を禦がなくてはなりませぬ、そうして其側壁は緻密な物質で造るのであります、是れて地氣の進入を防ぐのであります、併し日本の家屋の床下は通常空氣がヨク通過しますから、地上に出た地氣は稀薄になつて居りますから、床を通つて室内へ這入りましても、大した害はありませぬ、けれ共床が直に地の表面に接して居るやうな構造をする時には不透性のものを用ひなければなりませぬ。

床の上に敷く疊は空氣を多く含有して居るものでありますから、溫を保つといふ點に於ては最も適當なものでありますが、水分をヨク吸收する性を持つて居りますから、不潔な水抔を吸ふた場合には、分解して臭氣を放つ事があります、それ故疊は時々日光に曝らして乾かすのが宜しうあります。

壁　壁を種々なもので造られて居ります、其材料としては木、煉瓦、石、泥、シツクヒ抔を用ひます金屬「ペンキ」硝子の外は大抵空氣を通過させる性質を持つて居るものであります、そこて此空氣を通過

させる性質は大變必要なものでありまして、密閉してある室で空氣が絶へず交換して、室内空氣が清潔であるのは、天井、床、壁抔が空氣を通過せる、性質を持つて居るのと、それから室の內と外との溫度の相違と壓力の差とがあるからであります、尙詳しき事は換氣法の所で申し述べます。

それから壁を造る材料は可成溫の傳導の不良なるものを撰むのが宜しうあります、壁の物質の中に空氣を多く含んで居れば傳導が不良でありますから、壁の材料としては木材のやうに空氣をヨク含む物質は至極宜しいのであります、金屬は御承知の通り傳導力が强うありますから壁の材料には適しませぬ、金屬の壁であると夏は暑くて、冬は寒うあります、傳導力が弱くて空氣を含有する事の出來る物質は多くは重量が比較的小さうありますから、建築上の經費も尠くて濟みます、それから壁は此熱の小なる物質で作らなくてはなりませぬ。

壁の厚さは空氣の通過と溫の傳導とに影響を及ぼしまして、壁が厚いと空氣を通過する事が少くなり外の溫度を傳導する事が少くなります、それて熱帶地方では厚い壁を用ひて、外の溫が室內に及ばぬやうにしてあるといふ事であります。

壁を造る時にて多量の水を使ひますから、壁の中にて多量の水分を含んで居ります、それ故に充分に乾いた后でなくては住居する事は出來ませぬ、其乾燥する事の遲速は建築した時季に關係のある事であります、即ち夏は冬よりも早く乾きます、充分に乾燥しないのに上塗を急ぎますと蒸發が妨げられますから、永い間水分を含んで居ります、壁が地面に付いて居る時には、もし其土地が濕潤して居れば毛細管引力て以て地中の水分を吸ひ上げますから壁は常に濕潤して居ります、又壁に不潔物を含み、水を吸ふ性質のものが雜つて居る時には、空氣中から水分を吸收して常に濕潤てあります、

屋根　屋根は雨露と太陽の直射を防ぐ目的を持つて居るものでありまして、室內溫度や換氣（後に御

話し致します）にも大なる關係を及ぼすものでありますから、材料としては水の侵入を防ぎ温傳導の不良なものを撰まなければなりませぬ、それで日本家屋の草屋根は最も之に適したものでありまして其次は板と瓦とであります、金屬は全くいけませぬ、草屋根は併し火事に罹り易いといふ不利があります。

天井裏　といふのは樓上の床と天井との間の空間を指すのであります、西洋の家では音響の傳導を防ぐ爲めに茲に砂、「コークス」鋸屑のやうな種々の物質を入れて居りますけれ共非常に不潔になりまして、瓦斯が發生して、室内空氣を不潔にします、それ故に天井裏に塡める物質を可成淸潔なものを用ひなければなりませぬ、日本家屋の天井裏には、充塡物はありませぬけれ共不潔物が溜りまして、茲に鼠が生棲して糞尿を排泄し、此れが分解して室内に入ります、此れは「ペスト」の流行と關係の最も深い事でありますから、鼠の入らないやうな工夫をして、時々掃除しなければなりませぬ。

階段　階段の一つの高さは十六から十八仙迷が適當としてあります、幅は二十八仙迷位とすれば宜しうあります、階段と幅の割合は一定して居るものであります、階段が多い時には中途に踊場を設けると宜しい、又螺旋狀になつて居るものは危險であります。

新しく建築した家に移るのは、充分に乾燥した後てなくてはなりませぬ、濕つて居りますと室内空氣の交換が不良で温の調節が不充分であり、夏抔では室内に惡臭を放ち、食品が腐敗し易いものでありますから、充分に乾くのを俟たなければなりませぬ、日本壁は西洋のよりも水分を含む事が多うありますから、隨て乾燥するにも時が掛ります、それで移轉つて差支の無い迄に充分壁が乾いて居るかどうかといふ事は壁の水分と學問的の方法で檢査して決するのであります。

（以下次號）



小兒の生命を奪ふ眼病

醫學士　宇野功一君

「眼病で生命を亡くすることがあるでしやうか」とは、時々私共が人から受ける質問であります、左樣眼病丈けて生命を奪らるゝ樣なことはありませぬが、眼病が原因で全身病を惹起し、死亡するものは幾らもあります、惡性腫瘍などがまづ其例であります、惡性腫瘍といつても、癌腫や肉腫などは、身體の他の部に較べて、特別に眼に多いといふ譯でありませぬが、こゝに一つ他よりも好んで眼に發するものがあります、夫は網膜(眼內の薄膜)から出る膠腫であります。

網膜膠腫は、一名を「グリオーム」といひます、極めて性質の惡い腫瘍で、一度之に罹つたが最期、十中の八九は先づ生命のないものと覺悟しなければなりませぬ、而も其膠腫は好んで一歲から四歲迄の小兒を侵します、往々遺傳の關係があつて、一家族中幾人もその爲に、あたら莟の花を散して了ふことがあります。偖其發生や病理についてくだ〱しく說明するのも無益の業てありますから、一切省略することゝ致し、其經過を三期に分つて簡單に申述べませう。

膠腫に罹つた小兒を極初に見たならば、一眼時としては兩眼の瞳孔の奥に、何か物があつて黃色、或は白色の光輝を發し、宛ら猫の眼に髣髴たるを氣付くてありませう、されば徃時は網膜膠腫のことを、一にまた黑內障性猫兒眼と申した人もありました、黑內障性といつた理由は、患兒の視力は段々に衰へて、遂には失明に陷るからであります、けれども此時は少しも疼痛を感じませぬから、小兒は何も訴へ

ませぬし、周圍の人も一向に氣付かないで居るのが普通であります、偶然父母が之を發見し、且つ驚き且つ怪みつゝ、專門醫を訪ねて診察を求められたならば、愛兒がいつの間にか盲目になつて居るのを注意せられて、吃驚仰天するのでありませう、之を第一期と致します。

眼内の腫瘍が段々大きくなるにつれ、内壓が亢くなり、眼には炎症を現はします、瞳孔が散大する、角膜が溷濁を生ずる、疼痛が劇しくなる、時には痙攣が來る、嘔吐を催す、丁度綠内障といつた樣な症狀を呈して參ります、之が其第二期。

第三期になると腫瘍は益々發育して、眼球外に破れ出し、眼球内は愚か眼窩内（眼球の收まつて居る骨腔）さては視神經を傳はつて腦に飛火をし、終には身體の處々に轉移して、淋巴腺、肝臟、骨等に迄及び、終に患兒は身體も精神も衰へ果てゝ落命するといふ順序になります。

斯る恐しい、性質の惡い腫瘍の療法はどうかと申すに、特別に良藥がある譯でない、唯々時期を失はぬ樣手術するの外はありません、即ち時期が早ければ眼球を摘出すとか、病勢が進んで居れば、思ひ切つて眼窩内容除去法といつて、眼球と一緒に其周圍の組織を、悉皆除き去らなければなりません、勿論それで再發なしに、治癒することもありますが、大抵は手術の時期が遅れる爲に、或は姑息な手段をやる爲に、縱令一時は快くなつた處が、再發又再發で遂には手を拱して死を待つより外なきに立ち到ります。

說て此處に至つて、世の人特に夫人達に、切に希望したいことが二つあります、其一は平素愛兒の健康に注意せらるゝと共に眼の方にも氣を付けられて、少しでも變つた事があれば、速に專門の醫者に掛けらるゝこと、今一つはかゝる場合に臨んで、醫者の忠言に濫りに喙を容れず、快く勸告に從て一刀兩斷の處置を採らしめられんことであります、蝶よ花よといつくしみ育てた愛兒の、眼球を剔り出す

と云へば、如何にも慘酷のやうに聞えて、親の身に取つては堪えられないことではありませうが、なまじい慈愛に溺れて、手術の時期を遲らし、大切な一命を落さしむると、孰らが宜しいかを考へるならば、寧ろ涙を揮つて醫者の手腕に一任した方がどれだけ得策であるか知れません、今左に其一例を擧げて生きた證據を御覽に入れませう。

昨年八月の中旬、某區の或醫者の紹介で、一眼の綠內障といふ診斷の付いた四歲の小兒を入院させました、處が診察して見ると、純粹の綠內障ではなくて、紛れもない網膜膠腫の第二期に進んだものでありました、段々聞いて見ると、既に五月頃左眼の瞳孔の內に、變に光るものを見ましたから、不審して件の醫者を訪ねましたが、其人は內科醫で、各別眼科の智識がなかつたものと見え、何も心配はないと易受合をせられましたに由て、別に意に介することなく月を送るうち、昨朝突然左眼の劇痛を訴へて、泣き號びますから、草惶其醫者へ驅け付けますと、之は綠內障だといふ診斷で、大學病院へ廻されることになつたのださうでありました。そこで私共は其病氣の恐るべき所以を話し、眼窩內容除去法の外、療治の手段のないことを、懇々と說きましたが、年若いお母樣は泣き崩折れて、どうにも承諾致しませんから、餘儀なく眼球摘出丈けを納得させて、一時を彌縫しました。手術後の經過も先づ宜しく、間もなく退院しましたが、今年三月再診を求めに來た時は、もう再發の徵候が現はれて、患部は腫れふさがり、頭骨肋骨などにも腫物を生じ、身體も非常に衰弱して居りました故に、到底だめと知りつゝも、あらゆる手段を盡しましたが、四月某日遂に見る影もない可憐な姿に變り果てゝ、息を引取つたのでありました、けれども若き夫人は充分覺悟せられたと見えて、もはや去年の如き女々しき振舞をせられず、自ら愛兒の解剖を願ひ出でられて、學問研究の犧牲に供せられたので、私共は其健げな精神に對して、感謝と同情を寄せざるを得ないのでありました。

更に多くを言ふを須ゐませぬ、一旦かゝる場合に立ち到れば、周章狼狽することなく、斷腸の情を忍んで潔く決心することは、慥に婦人の一の美德でありませう。（了）



質疑

●問　貴會いよ／＼御盛榮奉賀候陳ば誠に恐入候得共本年三歳の男兒二ケ月前より時々下痢致し候得共甚しからざる故放任致し置き候ひしに先月中旬より一日五六回許り下痢致し身體漸次羸瘦致し候につき取り敢へず醫師の診察を乞ひ候處小兒腸加答兒との事にて其後藥用致し居り候へども未だ其の効驗顯はれず甚だ困り居り候間何卒適當の攝生法御座候はゞ御教示下され度偏に願上候

●答　　東京　一會員　某

小兒腸加答兒一名慢性小兒消化不良症は四五歳の小兒に最も多く頻發する疾病でありまして云はゞ小兒の消化器官は諸般の害因に對する抵抗力の微弱なるものと兩親及び保姆の養育其の宜しきを得ざるに由るからであります、先づ本病の原因となるものは不適當なる人工的哺乳、齒牙發生時、授乳者の心神異動、瘦削性疾患殊に肺結核、黴毒、脚氣、强度の貧血、離乳時期失當の如き者でありますから無論是等の害因を遠ざくることが第一であります出來得べくんば母又は乳母の乳汁に依て養育することが大切で授乳者は健康で心身の安靜を保ち、强度の貧血、肺結核、脚氣、黴毒、精神病等に罹るものは其の授乳を禁すべきは申すまでもない事であります

人乳を以て養育することの出來ぬ場合に於ては牛乳を與ふるのが一番よいのです此際注意すべき要件は牛畜結核の傳染で近頃或る一部の學者は牛畜

結核は乳汁に依て人體に傳染せず宜しく生乳を用ふるに如かずとの新説もありますが吾人は先づ一旦煮沸して用ふることの安全なるを信ずるのてあります、それから牛乳は人乳よりも糖分に乏しきが故に牛乳百瓦に白糖四瓦の割合を以て配合するのてあります

以上は豫防的攝生法の一般てありますけれども既に本病を發したならば以上の攝生法を嚴守すると共に褥中に安臥せしめ、腹部に巴布（蒟蒻を温め）又は温濕布にて温包し冷却せしめぬ樣注意し醫藥療法を怠らぬ樣されなば漸々回復せらるゝ事と思はれます

●問　謹啓貴會愈々御隆盛奉賀候陳ば妾家族に先年來胃擴張神經性食欲不進併發の患者有之候て甚はだ困難仕居り候、右は治療の方法有之候ものに御座候哉伺ひ上け度尚ほ投藥及び平素の食物及び攝生等を質疑欄にて御指示被下度幾重にも奉願候

山形縣　三島某

●答　胃擴張及び神經性消化不良症は種々の原因に依て來ます從つて治療の方針も主眼とする處は其の原因を除くにあるのてす故に一應按診の上にて其の原因を確めねば遺憾ながら適當の藥物を處方することが出來ぬのてす、然し如何にせば醫療を助け治癒を速かならしむることが出來るかと云はゞ食物の攝生が第一て總ての不消化物及び胃中に醱酵を起し易きもの例之は芋、野菜、未熟の果物類等の如きものは成るべく之を避け少量にて滋養に富むものを用ゆることが肝要てあります、而して食事は一度に多量を用ひずに少しづゝ一日五六回副食としては鷄卵軟き肉食を主とし且つ湯茶は過度に飲むことを避けねばなりませぬ、要は只胃の負擔を輕からしめ身體の榮養を計るのてす、又適度の運動を試み腹部は常に温包し腹壁の弛緩せるものにありては程よく腹帶を用ゆることに注意を致さなければなりません、本病は原因の如何に

由て異なれども患者は能く醫の命に從ひ加療怠らされば全治し得るものてあります

雜報



○贈位祝典

我が西洋醫方の開祖たる杉田玄白先生が新井白石、青木昆陽等の諸家と共に贈位の榮典に浴せられたるにより獎進醫會、若越醫學會の兩會にては來る廿二日を期し東京醫科大學法醫學教室内に於て祝典を擧げ同時に西洋醫方の發展を示すため醫史展覽會を開き篤志者の展覽に供すべき計畫なりと云ふ

○製劑取締規則の制定

製劑取締規則は内務省に於て草案を起し中央衛生會に七名の委員に附託して取調中なり右は豫め藥劑師より藥名分量等を記載したるものを主務省に届出で藥品巡視官は之に依りて藥劑師の藥局に就き該届出と適合し居る製劑を爲すや如何を知悉するにあり此規則を醫師の藥局にも應用すべしとの議ありて旁醫師社會の一問題たるべき形勢なりしと云ふ

○普國赤十字徽章受領

三十七八年日露戰役に際し我國に來り日本赤十字社千駄ケ谷病院に於て負傷兵の救護に盡力したる獨逸ヘヌレイ及フイクーキの兩夫人に對し我政府より勳章を贈りて其厚意を表したるが今回獨逸皇帝より小澤副社長平山理事の兩氏並に當時の看護長鈴木ヒサ子に對し普國赤十字三等徽章を贈り來れり因に該勳章は閑院宮妃殿下に贈られたるものと同樣にて右三氏の外鍋島侯花房次官千家男の各夫人にも贈られたりと云ふ

○旅順病院問題

戰爭中占領以來我赤十字病院に於て引續き使用し居れる旅順赤十字病院の建設物は曾て聞及びたるが如

く我國に在ては公共造營物としてポーツマス條約に依り當然我國の所有に歸すべきものなりと主張し露國政府は之を以て一個の私有財產として讓渡を肯んぜざるが爲め久しく未決のまゝ推移せしが此程我政府は遂に讓步して露國政府の意見を容れ之を私有財產として還附するに決し更に兩國赤十字社間に於て賣買の協商を爲すことに協議調ひたるやにて爾來彼我赤十字社は賣買價格の交涉を開きたるが、日本赤十字社は十万圓にて讓受けんと申込みしも露國赤十字社は建築當時の經費より打算して三十萬圓ならでは應じ難しと主張し今に相談纏まらざる由なるが既に之を個人私有財產と認定したる以上は一國權利の得喪に關係なきを以て遠からず双方多少の讓步によりて折合附くならむといふ

○精神病者慈善救治會

明治三十五年十月東京帝國大學醫科大學敎授夫人諸氏の發起にて成立の精神病者慈善救治會は伯爵夫人大隈綾子を會長に戴きて以來會運頓に發展せしかば今年は去月十六日午後一時より第四次總會を兼て園遊會を會長邸園に開きたり接待役は鳩山岡田片山吳榊三宅靑山天野高田の博士夫人來會者も妙齡の婦人連多く四千個のすし辨當瞬く間に配り盡して盛況謂んかたなし斯くて玉寶堂主人の寄進に係る娘手踊は演ぜられ更に宮內省式部職の雅樂師數番の樂を吹奏し吳博士は起つて簡單に會務の報告を爲し終るや大隈伯は會長代理として夫人の爲めに一言會員に謝辭を述へて曰く

今日の天候は曇晴不定なりしにも拘はらず道路斯くも多數に淑女紳士の來會せられしは謝する言葉なし、世の進步と共に慈善仁愛の事業も大に發達し是に同情を表する人々か娛樂的慰安的又は談笑の間に友情を敍すると云ふ其半面に於ては不幸に呻吟する社會の不遇者を救ふところの善事を施しつゝあるなり想ふに文明は人をして殘忍酷薄ならしめ又生活を困難ならしむる爲めに幾多世の犧牲者を見るに至る可し是に一片の同情の意を注ぐは又人たるものゝ一大義務と謂はざる可らず敢て精神病者のみとは謂はず凡ての慈仁的事業に對して吾人は人として慈善の至情を捧げざる可らずと信ず云々

當日伯爵夫人は金百圓を今年度の事業費中に寄付し來會者に紀念物を寄贈せられたり因に同會の事務は

東京醫科大學精神病教室の諸氏を主事として一切之に委托し居れるが其成績は近來殊に見る可きものありと

○混砂米の增加

混砂白米の衛生上有害なるは一般の認知する所となりしより一時世論喧すしく是れが禁令さへ發布せらるゝやに傳へられたるより當業者等も尠からず狼狽して何れも無砂白米を販賣する旨標榜し隨つて上尾州砂の化粧米を賣る者ありとも從來の如く甚だしからざりしが近來又々混砂白米を公然販賣する者漸く增加し今や無砂白米と稱するものも上尾州砂の多少に止まり決して眞正の無砂白米なるに非らず故に衛生家が安心して喰へる無砂白米は殆と皆無となり眞の無砂白米を求めんとには玄米を手搗きにせざる可らざる始末に至れるなりと

○體育を重んぜよ

神保院長鈴木篤三郎氏は生來體質虚弱幼時は隨分父母の心を傷ましめし程にて敢て大病には罹らざるも常に感冒に侵され易く且つ久しく眼疾を患ひ體量の如きも嘗て十二貫目に達せし事なかりしかば如何にかして其身體を强健にせんものと弓、撃劍若くは冷水浴等を試み其他あらゆる體操殊に自轉車乗用等を試みたれど殆ど其效果なかりしに去る三十六年中圖らずもサンダウの體育法を入手し其運動法の極めて衛生的生理的に組立てあるを喜び最初四ポンドの鐵亞鈴にて運動を試み三箇月毎に一ポンドを增して今や十三ポンドの亞鈴を用るに至れり體量メキ／＼と一週毎に增し來りて十五貫六百目にも及びたるが氏は此體育法を人に語りて一たび新聞紙上に現はれしより或は自身に或は書面を以て其方法を質問し來る者多く青森縣中學校教員及び山口縣高等女學校長等も態々來りて此法を研究し歸れりと云ふ氏は此有益なる運動法を一般に知らしめんが爲めサンダウ式體育法詳解を出版したるも世上未だ之を知らず今尚書面にて其方法を尋ぬる者多き由なるが氏は是等の人々には一々體育法詳解を贈與し居り尚ほ體育熱心家

には郵税送付次第無代價にて發送すべしと云へば望みの人々は速に申込まれて可なり

○東京の井水

▲最良の水最惡の水　市内に水道と云ふ重寶なものあるも從來の習慣と經費との點に於て矢張り井水を使用せる者多數ありと見え明治三十五年以後今日に至る迄市衛生試驗所の檢査せし總數は五百餘に及びたるが一つとして飲用に適するはなく試驗所は煮沸飲用水の最下程度たる標準を以て檢査したる結果最惡の水は芝區芝口一丁目一番地の井戸にして比較的良水と認められしは牛込區早稻田鶴卷町木内菊方の井戸なり是を水道共用栓水に比するに一立方センチ米突中共用栓水が細菌六なるに芝口の最惡水は二萬七千二百の細菌を含有し居り最良と見做さるゝ牛込早稻田の水さへ尚五百の細菌を含有し格魯兒も最惡は共用栓水の四倍弱最良井水も三倍弱を含み固形物は共に共用栓水の六倍內外を有し硬度は最惡なるは七倍最良も尚二倍なりされば啻に飲用に適せざるのみならず食器の洗用にも煮沸せざれば危險なるべき者也

▲其原因は何?　井水の不良なるは種々なる原因あるべけれど井戸の不完全なるは其主因なるべく歐米諸國にては自然水脈の利用に妙を得たると其設備の完全なるより日本の如き危險多き水は稀なり、井戸を掘るにも地質の如何を見ざれば善良の水は得難く東京の如きは上部の粘土を經て砂利に至り更に其下層は粘土質なるを以て粘土の中に在る水は不良なるも此層を經て砂利の層に至らば水は自然に濾過せられ善良となる、故に最も完全なる裝置の井戸ならば善良なる水を得べきも其裝置不完全の爲め多くは他層の不良水中途より浸入し來り竟に東京現時の如き井水を見るに至りしならんか

▲水道の水　水の善惡を區別するにも其標準は各々國によりて異なり獨逸のチーマン、ゲルトル氏の標準程度と東京の水道水と比較すれば吾水道水の優良なるもの、只だ東京には地質上土地の下層に花崗石

の多き爲め冷熱の都度此花崗石溶解して固形物の量多きは缺點なれど衞生上左程憂ふべきものならず先づ東京の水道水は世界に於ても優良なりと云ふを憚らざるべし

▲東京地下の水脈　井水を直接に飲用するは無論不可なれど之を完全なる濾過器、即ち上層に二尺餘の小砂次に小砂利五寸、普通砂利五寸、直徑八分位の小石五寸最下に直徑一寸より二寸迄の小石五寸を敷きたるものを使用せば完全なる水を得られんも井は民間に於て容易に行はるべきことに非ざるを以て所詮は水道の水を使用せざる可らず、されど東京に於ける水の問題は井水よりも更に緊要なる水道水にあり今後市の人口增加せば現在の水量に不足を來すに至るべければ此際人工的の水道水よりも天然に流るゝ地下の水脈を利用して飲用に供せば莫大の金を要せずして善良なる水を得らるべく東京にも早稻田邊より千葉に至る水脈の地下に伏在せるは明かなるが如しと



大日本婦人衞生會記事

○本會十二月例會

本月七日第一土曜日午後一時半より神田一ツ橋通り女子職業學校内に於て本年の納會を開く、當日は豫て石原學士講演の筈なりしが差支ありて缺席されしより、先づ醫學士百瀨玄溪君には「傳染性の皮膚病」の題下に皮膚病の主なるものに就て種々陳べられたるが第一寄生虫及び寄生性の皮膚に及ぼす關係を詳細に一々圖畫を示して有益なる講話をせられ、次にドクトル富士川游君は前々よりの續き「人體及び其保護」に就ての講話なりしが今回は呼吸器即ち鼻、喉頭より氣管肺に就て就中彼の最も恐るべき肺結核の如きも極めて其の初期に於て攝養を怠らざれば大抵治癒するものなり云々と一々之を病理解剖上の見地より說明せられて一入興味を添へられたり、又傍

聽者は無慮百五十餘名にて中々の盛會なりし、閉會後別席に於て役員一同は來春の新年會の事どもを協議せられて點燈頃散會せられたり、出席の役員は左の如しと

松平芳子　鳩山春子　三浦數子
緒方悅子　羽田三緒子　濱尾作子
高木錣子　土肥多越子　岸澄子
田村喜代子　山口良子　長谷川仲子
岡田德子の諸氏（以上出席順）

新潟支會

○十一月例會

本月廿四日午後一時より當市婦人敎育會と聯合の上新潟師範學校附屬小學校に於て例會を開く出席者約七十名講師及び演題は左の如し

一神經衰弱の原因に就て　醫學士　池原康造君
一歐米婦人に就ての觀察　文學士　澁谷愛君
一食物改良談　新潟高等女學校敎頭　安田信吉君

弔詞

山形支會前幹事たりし紺野さだ子の君には病氣の處療養叶はず遂に此程遠逝せられたり依て本會は謹みて哀悼の意を表す

明治四十年十二月　大日本婦人衛生會

○本會入會者

○濱尾副會長紹介
●本鄕區西片町十　特別會員　阿部篤子

○岡田幹事紹介
●小石川區大塚窪町五　特別會員　吉田幸子

○事務所申込
●本鄕區湯島梅園町　通常會員　岡野をりえ子
●樺太コルサコフ樺太廳醫院官舍　通常會員　齋藤喜代子

○高崎支會入會者

○星野會長紹介
●高崎市　特別會員　大澤錦子
●高崎市　通常會員　笠原もり子

○山形支會入會者

○友田たみ子紹介
●山形市　通常會員　加藤あき子

○轉居

●臺灣嘉義廳警務課官舍へ　原口まつ子
●北海道旭川宮下通十三へ　室伏清子
●下谷區西町一山下庄次郎方へ　秋谷よし子
●駒場農科大學官舍へ　久保谷子
●北海道幌内炭山社宅へ　戸川祝子
●福岡市外春吉六二九へ　榊保三郎子
●京橋區南大工町一へ　平山照子
●大阪天王寺村字天王寺へ　伴よし子
●麹町區永田町二ノ六十六へ　本田梅子
●牛込區横寺町六十へ　石川さわ子
●牛込區市ヶ谷仲町三ノ四へ　關計無子
●麻布區市兵衛町二ノ十三へ　西澤幸子
●麻布區霞町一へ　江頭米子
●赤坂區青山南町五ノ四五へ　清田ふく子
●大阪市東區高麗橋詰町五へ　田中鎌子

私立大日本婦人衛生會

高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に協し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に設く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條支會に左の役員を設く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰 會務の報告等をなす●第十一條會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徴收は集會の席上に於てするを例とす但三ヶ月分以上宛前納すべし●第十四條支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは 衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條 特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を撰任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第九條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス 各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ和合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衞生會

新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衞生會に屬し婦人衞生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金参拾錢通常會員仝金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衞生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衞生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長は副會長總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衞生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時物品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衞生會の規則を準用す

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

明治廿九年四月創立

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第三號　メッキ製拾貳錢、送費六錢
第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七拾錢（黑塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在ハ郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五圓四半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地　齋藤清之丞

印刷者　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治四十年十二月十六日印刷
明治四十年十二月二十日發行（毎月一回二十日發行）
全
婦人衛生雜誌第二百十七號